

2019年4月26日

みずほディーラーズアイ (2019年5月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 109.00 ~ 113.00

国際為替部 為替営業第二チーム 加藤 倫義

■ 先月の為替相場

新年度入りしたドル/円相場は月初から米中貿易協議の進展と経済指標を背景とした株価動向に振られる状況であったものの、半月ば以降は112円近傍で膠着感を強めた。

前週のドル堅調地合いを引き継ぎ月初1日豪州時間に110円台後半から111円方向へ騰勢を強めて110.99円で東京入りしたドル/円相場は、発表された中国3月PMIが四ヶ月ぶりに50.0を上回ったことから111.19円まで上昇して4月を迎える。更に米国3月ISM製造業景況指数や2月建設支出が予想を上回り、米中貿易協議に新たな進展があったとの一部報道も手伝ってドル/円は続騰し、111.44円を示現した。また、3日には米中貿易協議の大半の問題を解消したとの報道もあり、4日には「トランプ大統領が習主席とのサミット日程を発表する」との記事が米中協議に対する期待感を高め、更に週末の米3月雇用統計も期待を裏切らない内容であったためドル/円は111.82円と、大台の一手手前まで買い進められた。

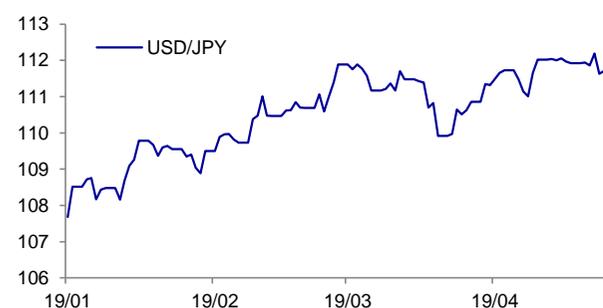
しかしその後は世界的な株価やリスクオフをテーマとした円買いが優勢となりドルは調整的に売り込まれる。8日月曜にはニールセン米国国土安全保障長官が辞任を表明と伝わり、トランプ米大統領がイランの革命防衛隊をテロリストに指定したことで原油と金価格が急伸。9日にはIMFが世界の経済成長予想を下方修正し金融危機以来の低水準な予想としたことでドル/円は111.00円を割り込んだ。10日にはドラギECB総裁のインフレに対する見通しが弱かったことからユーロが主要通貨に対して売り込まれ、ドル/円はこのユーロ/円の影響を色濃く受けて110.84円の安値をつける。但し、この111円割れはごく短期に留まり、ドル/円は再び騰勢を強めることとなる。米3月PPIが予想を上回り、新規失業保険申請件数も予想以上の低水準であったことから、クドロー国家経済会議委員長が「私が生きている間に一生金利は上がらないだろう」と発言したものの米利回りは上昇しドル/円はブル転。その後麻生財務大臣が日本企業は米国に対する投資意欲が強いと発言し、ドル/円は111.70円まで買い戻され、更に「EUが米製品102億ユーロ相当への関税措置を検討」との話が伝わるとドル/円はついに112円台へと上昇することとなった。ただ、112円台はさすがに本邦実需の円買いオーダーが待ち構えていることと、海外勢もイースターで取引を手控える向きも多く。その後のドル/円は小動きに終始した。イースター明けの海外勢は一旦ドル売りで攻めたが、対ユーロ、豪ドル、カナダドルで米ドルが買い進められると連れ高となり112円台に押し戻された。

■ 今月の見通し

今年度に関しては基本的に米国の金融政策に関して約6年ぶりの正常化停止を想定している。IMFによる世界経済見通しは19年4月においてその副題が「減速する成長、不確かな回復」となっており、世界経済に対する見通しはこの2年で一変した。米国の次の一手はもはや利上げではありえず、これ以上の日米金利差拡大は難しい状況であろう。たしかに世界の株価は堅調を維持しているが、企業収益は徐々に頭打ちとなり株価動向と乖離し始めている。足許で米国における景気拡大局面は過去最長期間に達しており、景気サイクル的にもこれ以上の景気改善を見込むことは難しいと思われる。今年には新天皇の誕生を控えゴールデンウィークが10連休と、経験したことのない長さになっており、本当の新年度入りは5月連休明けからと考えた方がいいであろう。5月から早速ドルベアを想定すべきであろうか。フロー分析してみると弊行で当初想定した以上に対外直接投資が続いており、円売りの圧力は衰える気配もない。対外直接投資は投資家による外債投資とは違い簡単にはヘッジされにくい投資であるし、いざリスクオフということになってもう簡単にはゲットアウトするわけにはいかないものであることに鑑みれば、その円売りの影響は為替相場にボディブローのように効いてくると考えられる。このアウトフローが年15兆円平均続いているわけで、もちろんこれは本邦で待機資金が豊富であり人口減少社会であることが前提であって、その状況に大きな変化がない以上今年度は直接投資が先細ると言うのは難しいだろう。同時にこのことはまた、これまでのところ上記を理由にして投機筋が円売りポジションを積み上げてきているとも言えるわけで、実際にIMMでの統計では円売りポジションが増加してきている。リスクオフの際にはこの投機的ポジションの巻き戻しはある程度期待できよう。しかしながら5月に関しては令和スタートの月であり、本邦市場参加者の多くは(当然当局も)、株価が下落するようなことには普段以上に神経質になっているであろうことは想像に難くない。本邦投資家は万が一1月3日のようなフラッシュクラッシュがあればすかさずドルを買い入れる準備は万端であろう。総合して考えるに、5月は当初じっくり円安を試すものの徐々に上値が切り下がっていく、そのような相場展開を想定する。

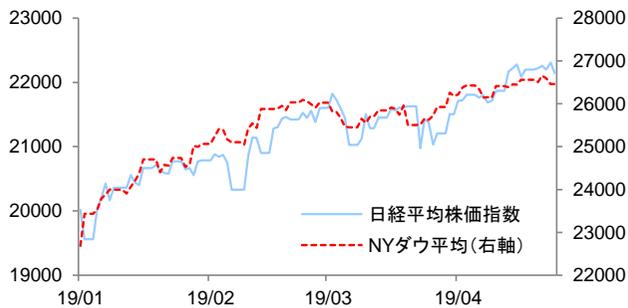
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
3/29	PCEコア(前年比)	1月	1.90%	1.80%	1.90%
4/1	ISM製造業景況指数	3月	54.5	55.3	54.2
4/3	ISM非製造業指数	3月	58.0	56.1	59.7
4/5	非農業部門雇用者数変化	3月	177k	196k	20k
4/5	失業率	3月	3.80%	3.80%	3.80%
4/5	平均時給(前月比)	3月	0.30%	0.10%	0.40%
4/10	CPI(前月比)	2月	0.40%	0.40%	0.20%
4/12	ミシガン大学消費者マインド*	4月	98.2	96.9	98.4
4/18	小売売上高速報(前月比)	3月	1.00%	1.60%	-0.20%

(資料) ブルームバーク

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル・ブル (5名、109.00～114.00、中心110.00～113.50)

関	109.00 ～ 113.00	投機筋の円売り持ち高は高水準に積み上がっており、何らかのショック時のボラの上昇と円買戻しの併走は警戒したいが、新元号がスタートする今月は、基本的にはリスク選好地合の継続が見込まれ、堅調な本邦投資フローも追い風に引き続きドル円は底堅い推移を見込む。
岡本	110.00 ～ 114.00	グローバルに景況感は悪化の傾向だが、米企業決算含めファンダメンタルズは悪くない印象。日米等の通商協議が不調に終わる可能性は低く、引続きハト派な中銀スタンスに支えられたリスク資産買いの流れに、クロス円の上昇を通じてドル円も引続き堅調推移を予想する。
上野	110.00 ～ 114.00	世界的な景気減速懸念が煽る状況において、引続きリスクは下方向と言う考えは変わっていない。だが、米経済の減速懸念が後退し、リスク資産に資金が向かっている状況下、モラトリアムの終焉は直ぐに訪れる訳でもなさそう。
原田	110.00 ～ 113.50	堅調な米株や原油価格が下支えし、ドルは引き続き堅調な推移を予想。ドル円のボラティリティは、過去最低レベルにまで落ち込んできているものの、値動きは徐々に下値を切り上げているようにも見え、やや出遅れ間のある本邦株式市場とともに、上離れする可能性も。
大熊	110.00 ～ 113.00	米国内の雇用や賃金は堅調で、個人消費も以前のような失速懸念は薄い。景気減速懸念が強まる欧州や日本と比べて米景気の底堅さが目立っており、消去法的にドル買いが強まりやすく、米国への資金流入が続くと思われる。

■ドル・ベア (5名、108.50～113.00、中心109.00～113.00)

竹内	108.50 ～ 113.00	米国を中心にグローバルに景気減速を織り込みに行く可能性があり、米金融政策も踏まえると、中長期的にはドルの上値は抑制的ながら、本邦勢を中心とした買いに下値は着実に拾われよう。結果的にレンジ内で売買交錯する展開を想定。
加藤	109.00 ～ 113.00	金利差では米ドルをサポートできないが直接投資と令和スタートの祝賀ムードによってドル/円は支えられる。しかし企業収益が株価動向から乖離を始める等、米国経済指標が徐々に悪化してきており先行きはドルの頭を重くする。
光石	109.00 ～ 113.00	米国の金融政策の見通しは引き続きハト派スタンスが継続するものと見ており、ドルの上値を抑える要因となろう。ただし、主要通貨間での相対的なドル投資の魅力は引き続き高く、基本的にはドル円はレンジ相場が継続するものと考えている。
玉井	109.00 ～ 113.00	米国の経済は底堅いが、FRBが早急にスタンスを変更するとは思えず、ドルは上値の重い展開を予想する。世界経済の減速懸念を背景に市場の利下げ予想確率は足元むしろ上昇しており、利上げを見込んでいた昨年頃の水準までドル円が上昇するのは難しいのではないかと。
森谷	109.00 ～ 113.00	5月FOMCは引き続きハト派スタンスとなると考えられ、米金利上昇を背景としたドル買いは盛り上がりづらい状況。また、足元では株価の堅調推移が続くものの、グローバルな世界景気減速懸念が意識される中では、円売り圧力もさほど大きくは高まらないだろう。

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.0900 ~ 1.1300
EUR/JPY 121.50 ~ 127.00

国際為替部 為替営業第二チーム 玉井 美季子

■ 先月の為替相場

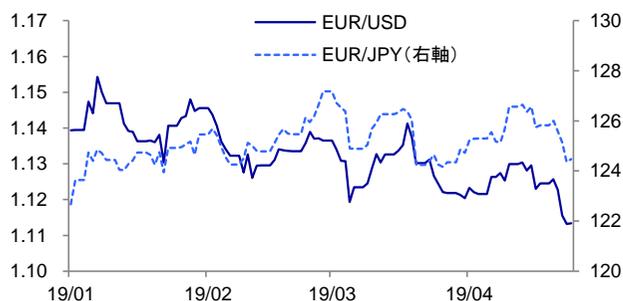
今月のユーロ相場は上昇の後下落に転じた。月初1日1.12台前半でオープンしたユーロ/ドルは、強弱入り混じる米経済指標を受けて1.12台半ばまで値を上げた後に反落。2日は独金利低下を受け一時1.12を割れたが「メイ英首相が労働党のコービン党首との協議を提案した」との報道に、一時1.12台前半までポンドに連れ高となる場面が見られた。3日はユーロ圏3月PMIが市場予想を上回り1.1255まで上昇。4日はECB政策理事会議事要旨の内容がハト派と取られたこと等を受けて1.12台前半まで下落。5日は強弱まちまちの米3月雇用統計に一時に上下に触れたもののレンジで推移。8日「ECBはマイナス金利見直しを急いでいない」との報道が出たがユーロ売りは強まらず1.12台後半まで上昇。9日はメルケル独首相がアイルランド国境のバックストップ案に5年の期限を設定するとの報道(後に否定)を受けポンドが上昇する動きにユーロ/ドルは連れ高となったが、反落した。10日はドラギECB総裁の記者会見を控えて1.1288をつけたものの、マイナス金利の副作用を軽減する策が必要かどうかを検討、年内は景気やインフレの弱さが続くドラギ総裁が述べたことからユーロ全面安となり1.12台前半まで急落。しかしその後は米金利低下を手掛かりに1.12台後半まで反発する荒い展開となった。11日は英国のEU離脱期限の10月末までの延長が決定したが相場への影響は限定的。米金利上昇を受けたドル買いにやや下落した。12日はユーロ/円に買いが入りユーロ/ドルも上昇。その後中国の経済指標改善を受けて月高値1.1324まで上昇した。15日は株式市場の下落に連れてユーロ/円が売られユーロ/ドルも1.12台後半まで連れ安。16日「少数のECB理事が楽観的なECBの経済見通しに懐疑的」と伝わり1.12台後半まで値を下げたが、「ECBは利下げ・マイナス金利階層化に消極的」との報道を受け買い戻された。しかしブレクジットを巡る報道を受けて不透明感が高まり1.12台後半まで再度下落した。17日は良好な中国経済指標にリスクオンムードとなり、一時月高値となる1.1324まで上昇。その後は独政府が2019年の成長見通しを引き下げたため1.12台後半まで反落。18日は各国4月製造業PMIが軒並み予想を下回り、1.13から1.12台前半まで急落。19日はイースター休暇で取引閑散の中緩やかに上昇。22日は米国がイラン産原油の輸入の全面禁止を発表したことで資産通貨に対しドルが下落しユーロ/ドルも上昇。23日は特段材料なかったがドル買いが強まり一時1.12を割れる展開。24日は市場予想を下回る独経済指標を受け独10年債金利がマイナス圏に沈む中、年初来安値を割り込み月安値となる1.1141をつけ、1.11台半ばでクローズした。

■ 今月の見通し

来月のユーロ相場は上値の重い展開を予想する。ユーロ圏は引き続き経済指標の弱さが目立っている。4月に発表された3月のPMI速報値は市場予想を下回る結果が多く、特に独製造業PMIは引き続き景気の下回れ目となる50を下回る結果が続いている。これまでユーロ圏の経済を牽引してきたドイツ経済は減速が顕著であり、ドイツ政府も2019年の成長見通しを1%から0.5%に引き下げた。今年に入りユーロ圏の一部サービス業PMIや鉱工業生産等の結果が持ち直しを見せていた中で、3月のPMIが市場予想を下回ったことは、市場が予測していたよりユーロ圏の経済の弱さは継続する可能性を示しておりユーロ圏に対するリスクセンチメントは悪化している。ECBは前回の会合において経済成長見通しの引き下げを行ったが、複数の理事はそれでも年後半には経済成長が回復するというECB経済成長見通しは楽観的である、との見方をしているとの報道も出ており、ECBは引き続き正常化は難しく長期間にわたり金融政策の現状維持を迫られるであろう。金融政策について言えばFRBもハト派であるため、ユーロ/ドルはどちらも買いつらい状況であるが、経済指標を見ると米国の方が底堅い印象であり、ユーロ/ドルは上値が重いであろう。また5月23日から26日にかけて5年に一度の欧州議会選挙が実施される。世界的にポピュリズムの台頭が懸念される中、これまで以上に注目が集まりヘッドラインに振られる展開や、EU体制に対する懸念からユーロの上値が重くなる展開も予想される。ブレクジットに関しては、欧州議会選挙の前までに離脱案を承認できない場合には欧州議会選挙への参加が求められる。離脱期限が10月末まで延期されたことで、市場ではいったん安心感が広がっておりブレクジットを背景に相場が上下する可能性は低下したと思われるが、この場合ユーロに懐疑的な勢力が欧州議会選挙において議席を伸ばす可能性も否定できず、いずれにせよユーロ相場の重しになるであろう。

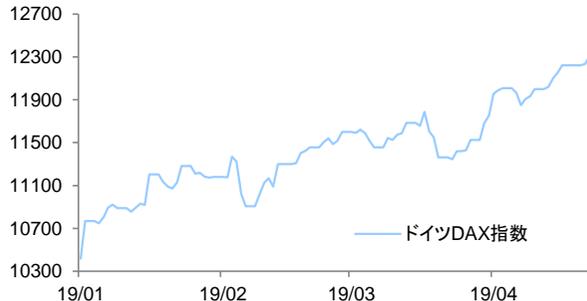
■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	マーケット ユーロ圏製造業PMI	3月	47.6	47.5	49.3
4/3	マーケット ユーロ圏サービス業PMI	3月	52.7	53.3	52.8
4/4	独製造業受注	2月	0.3%	-4.2%	-2.1%
4/5	独鉱工業生産	2月	0.5%	0.7%	0.0%
4/10	ECB主要政策金利	4月	0.0%	0.0%	0.0%
4/11	独CPI(前月比/前年比)	3月	0.4%/1.3%	0.4%/1.3%	0.4%/1.3%
4/16	独ZEW指数(現状/期待)	4月	8.5/0.5	5.5/3.1	11.1/-3.6
4/18	マーケット ユーロ圏製造業PMI	4月	48.0	47.8	47.5
4/18	マーケット 独製造業PMI	4月	45.0	44.5	44.1
4/24	独IFO企業景況感指数	4月	99.9	99.2	99.7

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ・ブル (1名、1.1000~1.1400、中心1.1000~1.1400)

加藤	1.1000 ~ 1.1400	政治リスクの沈静化と投機的な下値トライが落ち着くに従って貿易黒字を背景としたユーロ買いが消去法的に目立ってくるようになることを想定する。
----	-----------------------	--

■ ユーロ・ベア (9名、1.0800~1.1400、中心1.0900~1.1300)

竹内	1.0900 ~ 1.1300	欧州圏の政治・経済情勢・金融政策等、ファンダメンタルズを踏まえればユーロ買い材料は限定的。リスクは市場がユーロ下落を急速に織り込んだ場合のスピード調整やポジション調整か。
関	1.0900 ~ 1.1300	ドイツの景況感指数は低水準に留まり、今月発表の第1QGDP成長率の低下も見込まれる。今のところ関税対象が小規模であるが、トランプ政権とEUの間で通商摩擦が激化する可能性も警戒したい。
光石	1.0800 ~ 1.1300	ユーロ圏経済が引き続き減速傾向にあることに加え、英国のEU離脱問題も離脱期限が延長されたことにより、より混迷を深めるリスクが出てきており、こうした要因がユーロの上値を抑えていくものと考えている。
岡本	1.0800 ~ 1.1400	ユーロ圏は個人消費は堅調も、鉱工業生産や輸出関連は低調に推移しており、弱めな景況感も含めればECBも一段とハト派にシフトすると思われる。欧米で中銀スタンスには差がないもののファンダメンタルズの違いは一目瞭然、ゴールドロック相場の中でユーロは売られやすいだろう。
上野	1.0900 ~ 1.1300	米経済と欧州経済の勢いの違いは明確。加えて、政治的な懸念も燦る中において、積極的にユーロを保有したい向きがいるとも思えない。引続き、軟調な地合いが続くのでは。
原田	1.0800 ~ 1.1300	ユーロ圏の経済指標が弱含みを見せる中、ユーロは年初よりじりじりと上値を切り下げている。プレクジットの混迷やドイツ経済についても陰りを見せており、ユーロの上値は限られるか。
玉井	1.0900 ~ 1.1300	ユーロ圏の経済は底を打ったかと思われたが、経済指標はユーロ圏経済を牽引してきたドイツを中心に弱いものが目立っている。対照的に米国経済は底堅くユーロ/ドルは軟調な展開を予想する。また欧州議会選挙に向けてポピュリズムの台頭等の報道が出る場合にはユーロの重石となるであろう。
森谷	1.0900 ~ 1.1300	ドイツをはじめとするユーロ圏の経済指標は落ち込みが目立っており、ECBの正常化プロセスは大きく後ろ倒しとなると見られる。欧州議会選挙を控えてプレクジット問題に対する警戒感も次第に高まると考えられ、ユーロは引き続き下方向への動きに警戒。
大熊	1.0900 ~ 1.1300	足元の中国経済の改善により欧州景気も上向くと期待されたが、牽引役の独自の経済指標が思わしくなく、ECBはさらにハト派色を強めるとの懸念が浮上している。好調な米景気に対して欧州の景気減速懸念は顕著であることから、ユーロは軟調地合いを予想する。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.2500 ~ 1.3000
GBP/JPY 140.00 ~ 145.00

欧州資金部 山本 泰平

■ 先月の為替相場

4月度のポンド/ドルは1.30レベルでオープン。序盤こそブレグジット一色のニュースに包まれたが、英EU離脱期限が先延ばしされた上、当の英議会もイースター休暇に合わせた11日間の休会期間に入ったため、概ね小動きに終始。

4月に発表された英経済指標は、EU離脱の影響が明暗を分け、指標によって両極端な結果が示唆されたが、市場の反応は非常に限定的だった。まず、英3月製造業PMIは、完成品の在庫指数は55.9となり、過去最高を更新する等、EU離脱前に英企業が記録的なペースで在庫を積み増したことから、55.1(予想:51.2)と18年2月以来の水準に改善。雇用関連では、平均週間賃金の伸びが前年比3.5%(予想:3.5%)となり、上昇率は2008年半ば以来の大幅な伸びを記録。英EU離脱の先行きが見通せない中で、企業が長期の設備投資よりも新規雇用にシフトしていることが示唆された。一方、英3月建設業PMIは49.7と、EU離脱国民投票直後の2016年8月以来初めて、2か月連続で50を下回り、英3月サービス業PMIも48.9(予想:50.9)と、2016年7月以来の低水準となった。商業不動産事業は2017年9月以降で最大の落ち込みを記録するなど、EU離脱の悪影響が浮き彫りとなった。

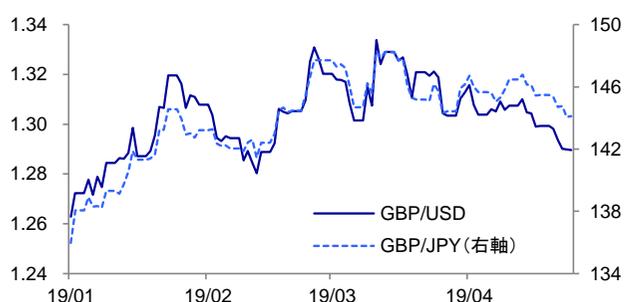
10日に開催されたEU臨時首脳会議では、10月31日までの延長で合意。その後、メイ首相は、労働党と共同で離脱案策定に取り組むことを主張し、反発した保守党の強硬離脱派が首相辞任を要求。さらに、野党・労働党の協議が行き詰っていると英紙が伝えると、月中安値、1.2879まで下落した。5月2日の地方選や5月23日の欧州議会選挙を前に保守党の支持率は急落しており、「メイ首相では戦えない」との焦りが広がっている。

■ 今月の見通し

重要日は5月2日。この日は、まず英4月製造業PMIが発表される。先月は、購買品在庫の水準を示す指数が、3か月続けて過去最高になったが、押し上げに寄与したEU離脱が延期されたため、在庫解消による今後の反動減が警戒される。次に、英中銀の金融政策委員会の結果や議事録に加え、四半期インフレ報告も、同日、発表される。前回のインフレ報告では、今年の成長予想が国民投票以来最大となる修正幅(1.7%→1.2%)で、世界金融危機以降の最低水準に引き下げられた。世界経済の減速に加え、EU離脱を巡る不透明感の長期化を嫌気し、企業投資や住宅建設が減少すると予想される中、英中銀の姿勢が注目される。離脱期限の延期を受け、次回利上げ時期予想も後ろ倒しされる可能性がある。賃金上昇率が、2008年半ば以来の高水準にあることから、ブレグジットを巡る不透明感が払拭されれば、英中銀は利上げに動くか見る向きもあつただけに、失望売りに繋がるリスクを孕む。ブレグジットを巡っては、最大野党・労働党との協議の行方が注目される。メイ首相にとって、完全に暗礁に乗り上げ、膠着状態となった現状を打開する方法は与野党強調以外に残されていない。たしかに保守党内の強硬離脱派よりは、協調の余地はありそうだが、消去法的アプローチという感覚は拭えない。政治的立場が全く違うコービン党首率いる強硬左派・労働党との協議は、与党内の分裂、首相降ろしの動きを拡大させる恐れがある。英紙によると、メイ首相は、与党・保守党の下院議員で構成する「1922年委員会」から6月末までの辞任を要求される見込み。メイ首相は昨年12月に実施された党首の信任投票で続投が決定したため、党規則では、信任投票は実施後1年間は再実施できないが、保守党幹部は、この規則の変更を協議する方針という。ブックメーカーでは年内の首相退任確率が8割で取引されている。英国では、欧州議会選を前にファラージ氏が旗揚げした新党「ブレグジット党」が英最大議席を獲得すると話題であるが、そもそも欧州議会選挙に英国が参加するか否か、不透明である。与野党協議が合意に漕ぎ着け、5月第3週までに離脱協定を批准すれば、イギリスは欧州議会選挙に参加する必要はなく、欧州議会選に参加せずに、6月1日に合意なき離脱を選択することも可能である。

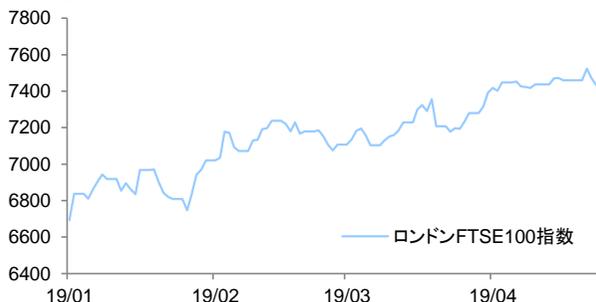
■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	製造業PMI	3月	51.2	55.1	52.1
4/2	建設業PMI	3月	49.8	49.7	49.5
4/3	サービス業PMI	3月	50.9	48.9	51.3
4/10	鉱工業生産(前年比)	2月	-0.9%	0.1%	-0.3%
4/10	製造業生産(前年比)	2月	-0.6%	0.6%	-0.7%
4/16	ILO失業率	3月	3.9%	3.9%	3.9%
4/17	消費者物価指数(前年比)	3月	2.0%	1.9%	1.9%
4/18	小売売上高(含自動車/前年比)	3月	4.5%	6.7%	4.0%

(資料)ブルームバーグ

豪ドル相場

予想レンジ: **AUD/USD 0.6920 ~ 0.7220**
AUD/JPY 77.50 ~ 80.50

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 原田 直彦

■ 先月の為替相場

先月の豪ドルは、0.71を中心として上下する展開となった。0.71近辺で4月を迎えた豪ドルは、2日オーストラリア準備銀行(RBA)理事会後に0.7080近辺まで大きく下落。声明文の内容は大きな変更が無かったものの、GDPの伸び悩み、また見通しが下方修正されたことからハト派的と受け止められた。同日発表となった、来年度(19年7月~20年6月)予算案は、道路等インフラへの投資を10年で1000億豪ドル、中低所得者向けの所得税減税等、事前の予想通り景気刺激的な内容となったものの相場の反応は限定的。下落の流れは欧米時間も続き、一時0.7050近辺まで下落した。しかし、翌3日には、2月豪小売売上が前月比+0.8%と予想対比大きく上振れたことを受けて豪ドルは0.71台を回復した。その後も強めの中国指標、米中貿易問題の進展を受けて豪ドルは0.71台で揉み合う展開となった。10日、デベルRBA副総裁の講演内容は、「消費の伸びは予想よりも著しく鈍い」としながらも、「堅調な雇用の伸びが続くと先行指標が示唆」との認識を示し、雇用とGDPについて引き続き注視していくというスタンスを崩さなかったことから、さほどハト派的では無いとの受け止められ方だった。その結果、豪ドルは上昇し、0.7170近辺まで上昇した。

中旬12日は強めの中国貿易関連指標、また堅調な株式市場を受けて豪ドルも更に上値を伸ばし0.7190レベルまで上昇したが、テクニカル面から意識されていた200日移動平均線が同レベルにあることから上値は伸び悩み展開となった。16日に4月RBA議事録の内容が発表となり、「利下げが適切となるシナリオについて議論」とのヘッドラインがハト派的と受け止められると豪ドルも0.7150レベルに下落した。しかし同日の米国時間には株式、金利が上昇するの連れて再び0.7170近辺に上昇。17日は弱めのニュージーランド第1QCPIからニュージーランドドルが売られる流れで豪ドルも売られる場面もあったものの、中国のGDP他各指標が予想を大きく上回ったことを受けて0.72台まで上昇した。その後も18日に豪3月失業率が強かったことから0.72ちょうどをトライする場面もあったものの、上値は重く、0.71台での推移となっていたが、24日の豪第1QCPIが予想対比弱めの内容となると、豪ドルは金利の低下に連れて0.7040近辺まで下落した。

■ 今月の見通し

5月の豪ドルは引き続き、0.70台前半での揉み合いを予想する。4月の豪ドルは、堅調な株式市場、豪小売関連指標の上振れにより、前半は上昇したものの、後半にかけて弱めの豪CPIを受けて下落する展開となった。オーストラリア準備銀行(RBA)のスタンスは大筋では、利上げ、利下げ双方方向に対応可能とのスタンスを変えていないものの、GDP見通しの下方修正、また議事録における「利下げのシナリオを議論」との記述等小幅なハト派スタンスへの修正を重ねており、弱めの豪CPIと相俟って利下げの可能性が徐々に高まっていると考える。

豪ドルはレンジ内の動きではあるものの、引き続き経済指標等を確認していくという中銀のスタンスは変わらず、今後も主要経済指標の発表タイミングではボラティリティーが高まろう。特に雇用関連については4月のデベルRBA副総裁講演においても、鈍化する経済成長と好調な労働市場のギャップがどのように解消していくかが政策金利の方向性を決定するうえで重要との認識を示しており、雇用関連の指標については特に注目が集まる。4月に発表となった豪3月失業率は予想通り5.0%であったものの、正規雇用者数等の中身は改善と引き続き強い内容となっており、市場の期待ほどRBAの金融政策のスタンスを利下げ方向へ変えるには至っていない。

豪ドルは、国内外でポジティブな材料が出て上昇幅は小幅なものに留まっており、上値は重い。引き続き、豪ドルの行方は豪州、米国、どちらで更なる利下げ観測が進むかに左右されると考えており、足元では、世界的に緩和環境が継続するなかで、どちらにも決定的な景気悪化材料が出ず、現状レベルでの揉み合いの継続をメインシナリオと考える。

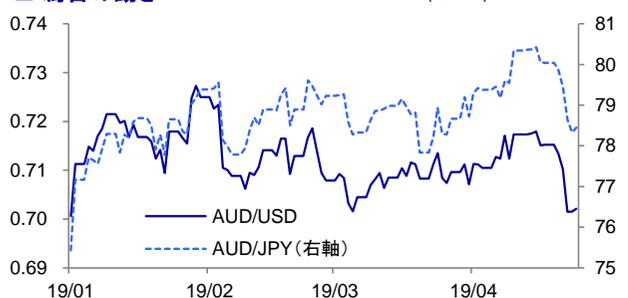
また、国内では5月18日近辺に豪州連邦選挙が予定されており、注目が集まる。4月に与党から提出された景気刺激的な来年度予算案発表以降、差は縮まっているものの、現時点では労働党が保守連合を若干リードしている。市場はどちらの勝利も完全には織り込んでいないため、豪ドルは労働党が勝利の場合は下方向、保守連合勝利の場合は上方向の材料となりそうだ。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気のパワースポット』
 オーストラリアのパワースポットといえば、やはりウルル、エアーズロックでしょうか。私は行ったことがないため、聞いた話になりますが、「とても素晴らしく、感動した。」という感想と、「ただの岩だった。」という感想と、2通りの受け止め方があるようです。天気等にも左右されるのかもしれませんが、自分の目で確かめる必要があるのではないのでしょうか。今年の10月以降登山禁止になる予定のようですので、登頂したい方はお早めにどうぞ。
 他にも日本の20倍の面積があり、国土の多くが砂漠とジャングルの国で、アボリジニの聖地とされるスピリチュアルな場所もたくさんあります。オーストラリアで一番最初に朝日があたる場所がヨガ(マウントウォーニング)、澄んだ水と緑に囲まれたヒーリングスポット(リッチフィールド)などなど、パワースポット巡りをすれば一年は簡単に費やせるのではないのでしょうか。都会の生活に疲れた方はこちらどうぞ。

■ 為替の動き

(資料)ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/2	住宅建築許可件数(前月比)	2月	-1.8%	19.1%	2.4%
4/2	豪州準備銀行理事会	4月	1.5%据置	1.5%据置	1.5%据置
4/3	小売売上げ(前月比)	2月	0.3%	0.8%	0.1%
4/3	貿易収支	2月	AS\$3700M	AS\$4801M	AS\$4351M
4/18	失業率	3月	5.0%	5.0%	4.9%
4/24	CPI(前期比)	1Q	0.2%	0.0%	0.5%
4/24	CPI(前年比)	1Q	1.5%	1.3%	1.8%

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.3100 ~ 1.3600
CAD/JPY 81.00 ~ 86.00

グローバルマーケット業務部カナダ室 三木 順一郎

■ 先月の為替相場

4月は大きなイベントもなく、24日のカナダ中央銀行政策金利決定会合までのUSD/CADは1.33から1.34の極めて狭いレンジ内での揉み合いであった。24日のカナダ中銀会合当日はカナダドル安が進みUSD/CADは一時1.35を上抜ける展開、月間高値は1.3521(4/24)、月間安値は1.3275(4/17)。

USD/CADは1.33台半ばで4月入り。5日に発表されたカナダ2月雇用統計では、雇用者数変化は7.2千人減少と市場予想を下回り内容的にも今一つであったことから、カナダドル安が進み一時1.34台を付けた。しかしWTI原油が月初に1バレル当たり60ドル台を回復した後も堅調地合いを続けていたことにもサポートされ、以降は1.34を付けては1.33に下落するという揉み合いに終始。

15日に発表されたカナダQ1の企業景況感調査の結果は芳しくなくカナダドル売り材料、17日に発表されたカナダ2月消費者物価指数はカナダドル買い材料となり、同指標発表後には一時月間安値の1.3275を付けた。イースター休暇明けの22日には米トランプ政権が対イラン制裁強化のヘッドラインからWTI原油が1バレル当たり65ドルを上回ってきたことはカナダドルにサポート材料となった。

注目の24日のカナダ中央銀行政策金利決定会合では、事前予想通り政策金利は1.75%で据え置かれたが、声明文では「現状の緩和的な金融政策が妥当」とする判断が示され、前回までの中立金利に関連する文言が取り除かれた。概ね予想通りであったが、もはや利上げは無いとの認識からカナダドル安が進み、USD/CADは一時1.35を上抜けたが、その後の記者会見でボロス総裁が次のアクションは利下げよりも利上げとする、声明文とはやや異なるスタンスを示したことからカナダドル安がフェードされ、24日16時現在(トロント時間)では1.34台後半で取引中。

■ 今月の見通し

3月から大きくは変わらず、FRBを中心としてグローバルに各国中央銀行の金融政策はハト派にシフト。グローバル景気のスローダウンもある程度は織り込み済みであり、リスクは年後半の利下げ。特にカナダは、原油価格及びカナダ産原油とのスプレッドも落ち着きを取り戻したものの、昨年秋のショックからの回復にはしばらく時間を要すると考えており、4月に発表された企業景況感調査でも内容は芳しくない。一つ一つの経済指標を見ていく、大きなカタリストを見出しにくい状況がしばらく続くと考えており、基本的には引き続きUSD/CADは1.3台前半での推移を想定。

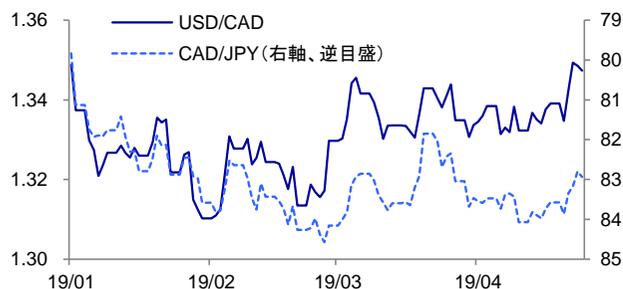
■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気のパワースポット』

パワースポット、何ですかね、「エネルギーが与えられる場所」という観点で書かせて頂きます。一つ思い付くのは、やはりカナダと言えば、ナイアガラの滝でしょうか。すごくひっそりしていて、荘厳な場所ではありませんが、名が知れているという意味で挙げました。当地には観光客が溢れ、やや騒がしさがありますが、船(霧の乙女号)に乗って滝の下近くにまで行ってみると、滝の轟音、水量とパワー、飛沫を浴びて五感が刺激され、エネルギーが充電されるような感覚があります。私はこれまでNYからのドライブ含めて何度か訪れましたが、夜はライトアップされ、夏には花火のイベントもあります。その他では、当地の方に教えてもらったのですが、マグネティックヒル。ニューブランズウィック州のプリンスエドワード島の西に位置するモンクトンという都市にある、この「磁石の丘」では、車でギアをニュートラルに入れているのにも関わらず、坂道を登っていく現象が体験できるようです。日本でも「お化け坂」として知られる場所と同じものと推測されます。恐らく恐らくは、何らかの見えない強力なパワーが渦巻いている場所なんだろうから一度は訪れてみたいですが、トロントから車で15時間、飛行機で2時間かかるので結構遠いので、多分行かないと思います。

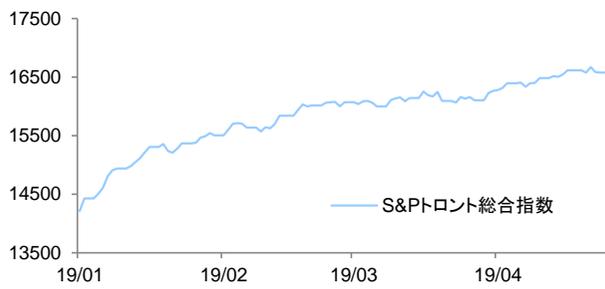
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/5	雇用者数変化	3月	6.0k	-7.2k	55.9k
4/5	失業率	3月	5.8%	5.8%	5.8%
4/5	平均時給変化(前年比年率)	3月	2.2%	2.3%	2.2%
4/8	住宅着工件数	3月	196k	193k	166k
4/15	カナダ企業景況感調査	Q1	-	-0.6	2.2
4/17	貿易収支	2月	-3.25bn	-2.90bn	-3.09bn
4/17	消費者物価指数コア(前年比年率)	3月	1.8%	2.0%	1.9%
4/18	小売売上高(前月比)	2月	0.4%	0.8%	-0.4%
4/24	カナダ中央銀行政策金利	4月	1.75%	1.75%	1.75%

韓国ウォン相場

予想レンジ:	USD/KRW	1130	1170	(注)100韓国ウォンあたりの対円レート
	KRW/JPY	9.479	~ 9.852	
	JPY/KRW	10.150	~ 10.550	

ソウル資金室 下山 泰典

■ 先月の為替相場

4月のドル/ウォン相場は、1130-1140台でのみみ合い推移となった。月初は、1134.80でオープン。3月31日に公表された中国の3月PMIに加え、この日公表された同Caixin製造業PMIのいずれも節目の50を超えるなど強い結果となったこと等を受け、この日のうちに月安値となる1131.10をつける。但し、この水準では実需筋や投機筋から押し目買いが入り反発。3日には、米中貿易協定で合意に向け問題の大半を解消したとの報道もあり一時的にウォン買いに傾斜する局面があったが、トレンドを生じるまでにはならず、結局1130台でのレンジでの推移が継続。

8日には1140近辺の投機筋等のポジション調整のオーダー等を巻き込んで上昇し、月高値となる1144.90をつける。その後は1140台前半～半ばでもみ合ったが、実需のウォン買いが入ったほか、12日に公表された中国の3月貿易統計で前年比での輸出の大幅な伸びが確認されたことや、同国の与信状況に関するデータで3月に予想以上に拡大していたことが明らかとなり、15日にかけて1130台前半まで下落する。

それでも、同水準での押し目買い意欲は強く、17日には中国の1-3月期GDPや3月小売売上高、同鉱工業生産等が軒並み強い結果になった中でもウォン買いは一時的に留まった。その後も底堅い動きが継続し、大きな材料があったとは言えない中で24日にはドル買い/ウォン売りが強まり、節目の1150を上抜け、1150.90の高値引けとなった。

なお、18日に韓国銀行(BOK)金融通貨委員会では、政策金利は据え置かれたが、2019年のGDP見通しや物価見通しが引き下げられたほか、声明文にもややハト派的と捉えうる修正が入った。総裁会見では、次の中銀の行動として利上げも利下げもあり得る旨を強調していたが、ハト派的な修正にも市場が動揺しなかったあたり、市場としてはやはり次の一手は緩和的な方向と考えているのだろう。

■ 今月の見通し

5月のドル/ウォン相場は、底堅い展開を予想する。4月のドル/ウォン相場はやや意外感のある値動きだったと感じている。米中貿易協定に進展が見られたほか、発表された中国の経済指標も堅調なものが多かった中で、ウォン買いのトレンドが生まれず、1130台前半でサポートされ、逆に24日には1150を上抜けてしまったためだ。レンジが切りあがってしまった印象もある中、1130台前半では押し目買いが入りやすかったほか、米国から比較的堅調な経済指標が出てきたことなどが背景ではあろうが、1130近辺での底堅さを確かめる月となった印象だ。

上記を考えれば、5月のドル/ウォン相場も基本的には底堅い推移を予想したい。米韓双方の中央銀行がハト派的なトーンに舵を切る中だが、米韓の政策金利差やファンダメンタルズを考えれば、投機筋にとってはやはりドル買いポジションを構築したくなるだろう。貿易収支や経常収支は黒字であるため、実需のウォン買い等に上値を押し上げられることで一方向にドル/ウォンが上昇する展開は考えていないが、方向感としては上と考えている。

ただ、レンジ内でもみ合っていると捉えることも可能な中では、引き続き上下双方向に注意が必要な局面であることに変わりはない。例えば、米中貿易協定が具体的に決着したり、中国の景気底打ち感が引き続き確認されるといったことが強く意識されれば、ドル/ウォンが1130を割れて1100を目指すといった展開も考えられるため、予断を持たずに臨みたい。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気のパワースポット』
様々な信仰がある韓国では、パワースポットという「所願成就を祈る場所」だと言えると思います。

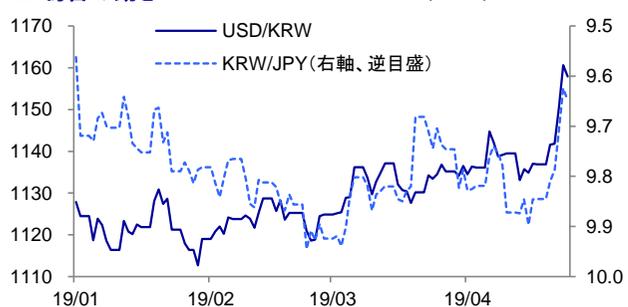
実は私は願い事を祈る為にどこか行ったことがありませんので、親に聞いてみたところ、「あなたが受験生のときに大邱(テグ)のカップवाईに行ってきたよ」との返答がきました。

大邱は、日本人の皆さまには陸上選手権が開かれた都市でご存知の方もいらっしゃるかと思います。ここ、夏はとて暑くて、テプリカ(テグ+アプリカ)という別称もあるほどなのですが、秋には八公山(バルゴンサン)を飾る紅葉がとても綺麗だそう。カップवाईはこの八公山にある桐華寺(ドンファサ)というお寺にあるお釈迦様像。巨大な座仏像に「真心を込めて祈ると願い事を一つ叶えてもらえる」という伝説があるため、入試競争の激しい韓国では大学合格祈願の名所となっているようです。ちなみに、私の両親は私の兄弟の大学受験の際もそれぞれ一度ずつは訪れてくれたらしく、3兄弟とも見事に大学合格したので、それなりの効果はあったでしょう！

皆さまも是非叶えてほしい事があれば、韓国の紅葉も楽しみつつ、お祈りに行ってみるのはいかがでしょうか？
ちなみにですが、ソウル支店の某日本人行員Aによると、「韓国のパワースポット？それは、運が良いと時々アイドルに会える羽田-金浦間の飛行機の中ですよ！！」と力説されました(笑)別の日本人スタッフですが、とある日韓合同アイドルグループの日本人メンバーと、飛行機の中で通路を挟んで隣になるという幸運を手にした者がいるようで、そのことをAに伝えると「何それ！？それはプラチナチケットだよ！！」と、追加で力説されました(笑)どこをパワースポットとするかは人それぞれなのかもしれません。(Yoo Jiwon)

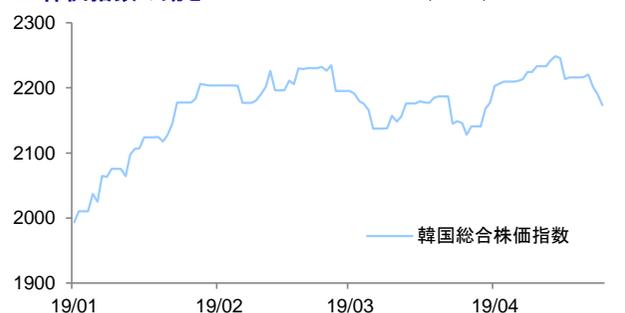
■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	輸出(前年比)	3月	-7.0%	-8.2%	-11.4%
4/1	輸入(前年比)	3月	-5.3%	-6.7%	-12.6%
4/2	CPI(前年比)	3月	0.7%	0.4%	0.5%
4/4	経常収支(国際収支ベース)	2月	-	\$3601.9M	\$2824.9M
4/4	貿易収支(国際収支ベース)	2月	-	\$5479.4M	\$5662.2M
4/10	失業率	3月	3.9%	3.8%	3.7%
4/18	BOK金融通貨委員会		1.75%	1.75%	1.75%
4/25	GDP(前年比、速報値)	1Q	2.4%	1.8%	3.1%

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 30.70 ~ 30.95
TWD/JPY 3.50 ~ 3.70

台北資金室 三浦 勇二

■ 先月の為替相場

4月のドル/台湾ドル相場は、30.8台を中心とした狭いレンジ内での推移が続いた。

月初4/1のドル/台湾ドルは、30.785でオープン。堅調な株価の推移を背景に、株式市場への海外資金の流入が増加したことを受け、ドル売り台湾ドル買い優勢で推移。一方、海外時間に米2月小売売上高、米3月ISM製造業景況指数が良好な結果となり、米金利が上昇をみせると、翌4/2は一転してドル買い台湾ドル売り先行の展開となり、ドル/台湾ドルは30.845まで上昇した。もともと、台湾ドル安に振れる場面では、輸出企業のドル売り取引も増え、ドル/台湾ドルの上値は押さえられたうえ、清明節の連休を前に積極的な取引は控えられたことから、その後のドル/台湾ドルは30.8台前半で方向感なく推移した。

清明節明け4/8のドル/台湾ドルは、連休中の海外市場において、習中国国家主席の米中通商協議に関して貿易協定の文書で大幅な進展があるとの発言が好感されたことや、米3月雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想を上回ったことなどからドルが堅調に推移したことを背景に、ドル買い台湾ドル売りが先行。その後も、月半ばにかけては、株安やそれを受けた海外資金の流出もあり、ドル/台湾ドルは30.8台後半へじりじりと上昇した。

月後半に入ると、米金利が上昇する中、ドル台湾ドルもドル買い地合いとなり、4/17には30.890の高値をつける展開となった。しかしながら、輸出企業のドル売りフローや株式市場への海外資金の流入が増加すると、再び台湾ドル買いの流れとなり、ドル/台湾ドルは30.8台前半へと反落。その後、4/22には30.8台半ばを回復するも、新規材料が少なく、上値を追う動きにはならず、方向感のない推移が続いた。

■ 今月の見通し

5月のドル/台湾ドル相場は、上値の重い推移を見込む。

4月に発表された台湾の経済指標をみると、3月の輸出額が前年比4.4%の減少となった。世界景気の減速懸念や、米中通商協議の先行き不透明感などから輸出が伸び悩み、5か月連続でのマイナス成長となっている。指標の内訳をみると、3月も2月に引き続き、製品別では主力の電子部品が同-7.2%、地域別では全体の約4割を占める中国・香港向けが同-11.2%とともに落ち込み、全体の輸出額の伸びを鈍化させる要因となった。1~3月の輸出額の減少は、財政部の見通しよりも少なかったものの、今後の見通しにはなお慎重な姿勢であり、回復が見られるかが注目される。そのほか、3月の消費者物価指数は前年比+0.58%で、前回の同+0.23%から物価の伸びが小幅に加速。食品価格が上昇をみせる一方、交通・通信費の値下がりも全体の伸びを押さえる結果となった。

5月は引き続き、台湾の株高が続くかどうか注目される。3月に開催されたFOMC以降、Fedのハト派化を株式市場が好感し、米国株(S&P500)は史上最高値を8か月ぶりに更新している。また、それを受けて台湾株も堅調に推移し、台湾加権指数は、2018年1月に記録した高値である11,270.18ポイントに近づきつつある。こうしたリスクオンの流れは、米金利が上昇を続け、利上げ再開が再び意識され始めるようになるまで続くともみられており、株高が続く場合、台湾株へは海外からの資金流入の継続が想定される。海外資金の流入は、為替の台湾ドル高圧力へつながりやすいことから、ドル/台湾ドルは5月も上値重く推移することが見込まれる。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気のパワースポット』

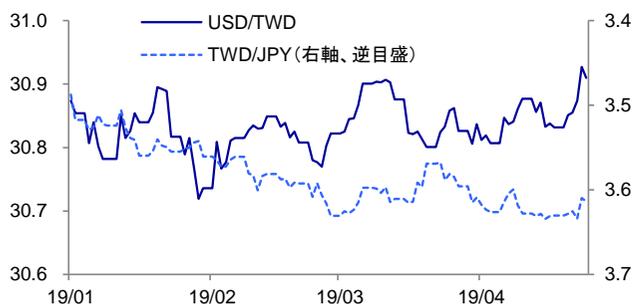
台湾にもたくさんのパワースポットがありますが、もっとも有名なパワースポットのひとつが龍山寺です。龍山寺は台北でもっとも古い寺院で、境内には100を超える神様がまつられていることから、願い事は何でも叶うとまで言われております。そのため、地元住民をはじめとして国内、海外からの観光客も多く通う人気のパワースポットとなっています。

次に挙げられるのが行天宮です。行天宮は三国志で有名な関羽がまつられている寺院になります。関羽は商売の神様としても広く知られており、仕事運を上げるために、多くの人々が参拝に訪れています。また、行天宮は市内中心部にあり、アクセスが便利なのも人気の理由のひとつのようです。

そのほか、台北の観光地である問屋街、迪化街にある霞海城隍廟も非常に有名です。霞海城隍廟にもたくさんの神様がまつられていますが、もっとも人気が高いのが縁結びの神様として知られている月下老人です。お参り時には名前、生年月日、住所を伝えることが重要とされており、良縁を求める女性が多く訪れるというのが特徴となっております。

■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	外貨準備高	3月	-	464.08B	463.94B
4/8	輸出(前年比)	3月	-8.3%	-4.4%	-8.8%
4/8	輸入(前年比)	3月	-12.6%	6.6%	-19.7%
4/8	貿易収支	3月	5.49B	3.12B	4.93B
4/9	CPI(前年比)	3月	0.60%	0.58%	0.23%
4/22	輸出受注(前年比)	3月	-5.0%	-9.0%	-10.9%
4/22	失業率	3月	3.70%	3.72%	3.71%
4/23	鉱工業生産(前年比)	3月	-1.50%	-9.88%	-1.80%
4/30	GDP(前年比)	3月	1.40%		1.78%

(資料)ブルームバーグ

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.8300 ~ 7.8500
HKD/JPY 13.90 ~ 14.40

香港資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【4月の香港ドル直物相場】

4月の香港ドル相場は、香港株式市場への需要の高まり背景に、四半期末の香港ドル調達圧力が強まったことが尾を引き、4月も香港ドル金利が予想外に上昇し、結果、香港ドル相場は取引バンドの下限である7.85から7.8305まで急上昇した。当然ながら、HKMAの決済性預金残高が544.7億香港ドルまで減少し、香港ドルの流動性が低下したことも、香港ドル金利の上昇の要因となった。マーケットで不意に起きた香港ドルの流動性の低下が、米ドル買い/香港ドル売りのキャリートレードをしていた市場参加者のポジションをアンwindさせることとなった。為替相場のストップロスオーダーは上記の香港ドル買いの動きを加速させ、香港ドルは7.83レベルまで急激に上昇した。その後は7.845まで売り戻された。香港ドルの流動性が低下したことで、1年物の香港ドルフォワードは▲670ポイントから▲400ポイント付近まで上昇、その後▲500ポイント付近まで下落した。

【4月の香港ドル金利市場】

香港ドルの流動性状況は、四半期末を経ても驚くほどに引き締まった。香港株式市場が好調に推移する中で、香港株式を購入する為の香港ドル需要の増加により、短期の香港ドル金利が上昇し、オーバーナイト香港ドルHIBORは年初来の高水準である3.34%近辺まで上昇した。実際に香港ドルの総合的な調達コストを示す総合利率が4月に0.80%から0.82%に上昇したことが、香港ドルの資金調達圧力の高まりを示している。1か月物と3か月物の香港ドルHIBORもそれぞれ1.9%と2.0%に上昇した。香港ドルHIBOR-米ドルLIBORスプレッドは、1か月物・3か月物がそれぞれ▲50bpsと▲60bpsに縮小した。長期金利は、市場参加者が4月にFRBの利下げ期待を低下させたため、3年物および5年物の香港ドルIRS金利は米ドルIRS金利上昇を追随し、それぞれ2.1%と2.2%に上昇した。

【4月の香港株式市場】

ハンセン株価指数(HSI)は年初来続いている上昇トレンドを継続し、30,000超の水準まで上昇した。中国A株が堅調推移していることや、米中通商協議に対する楽観的な見方などを背景に、ハンセン株価指数にかかるリスクセンチメントは改善し、香港ドルの調達需要が増加した。

■ 今月の見通し

【5月の香港ドル直物相場】

5月の香港ドルの取引レンジは7.83-7.85と予想する。香港ドル金利の上昇に伴う米国と香港の金利差縮小を背景に、当面は香港ドルが上昇すると考えている。また、ハンセン株価指数が堅調推移する中、香港ドル需要が高まっていることも、香港ドルのサポート材料になるだろう。一方、長期的には米国と香港の金利差が残存することで香港ドルの下落圧力につながり、再びバンドの下限である7.85まで下落すると思われる。また、ハンセン株価指数が足許の上昇トレンドから転じた際には、香港ドル需要は後退するだろう。さらに香港ドル市場は、米中通商協議が合意に至らなかった場合、引き続き資金流出リスクに晒されると言えよう。

【5月の香港ドル金利市場】

四半期末を越えた後の香港ドルの流動性の低下は、それまでの香港ドルの流動性の低下に対する香港ドル相場の反応の遅れを強調しているようだ。確かに、544.7億香港ドルというHKMAの決済性預金残高は、香港ドルの流動性バッファがかなり低いことを示しており、神経質な香港の銀行は、あらゆる香港ドルの需給ショックへの対応で、資金調達に対する大きなプレッシャーに直面しているだろう。その間、HKMAは通常の為替基金証書や債券のオークションを通じた新たな香港ドルの流動性供給をしていない。これは、香港ドルの流動性の低下を通じて、徐々に香港ドル金利を高い水準にしていくというHKMAの政策に対する姿勢が見て取れると言えよう。

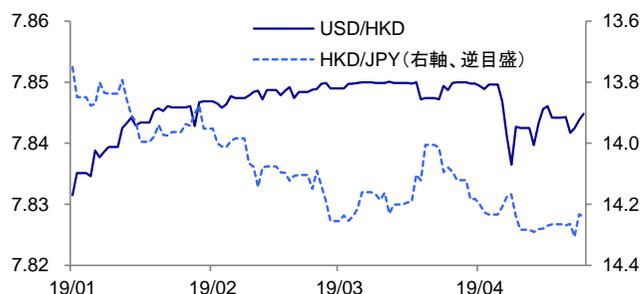
■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気のパワースポット』

九龍半島側にある「黄大仙」という道教の寺院は、香港で人気の神秘的な場所の一つです。旧正月の前日には、寺院で一番最初に札押すために競争が行われます。また、この寺院は占いの名所としても有名で、多くの占い師が店を開いており、日本語で占いをしてもらうことも可能です。

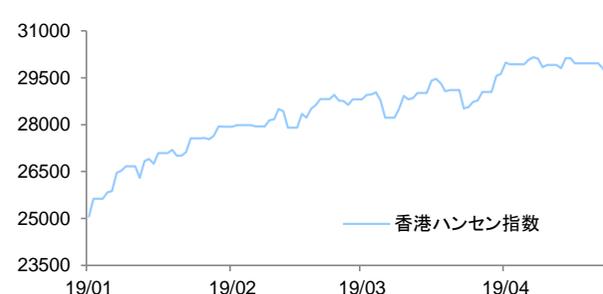
■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	小売売上高(価額/前年比)	2月	3.60%	-10.10%	7.00%
4/3	日経香港PMI	3月	-	48.0	48.4
4/8	外貨準備高	3月	-	\$437.9b	\$434.4b
4/18	総合利率	3月	-	0.82%	0.80%
4/18	失業率(季調済)	3月	2.80%	2.80%	2.80%
4/23	CPIコア(前年比)	3月	2.20%	2.10%	2.10%

中国人民幣相場

予想レンジ:

USD/CNY	6.5000	~	6.9000
CNY/JPY	15.51	~	17.23
100JPY/CNY	5.8000	~	6.4500

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 馬場 一樹

■ 先月の為替相場

【為替相場】

4月のドル/人民幣相場は中国経済指標に改善の兆しが見え始めたことを受け、一時元高進行するも、月末にかけてはユーロが大きく売られる動きにドル/人民幣相場も反転。

月の前半、ECB理事会やFOMC議事録公表、英国のEU離脱期限再延期など、注目された経済・政治イベントを消化する中、ドル人民幣相場への影響は限定的となり、6.70付近から6.72付近のレンジで上下する展開。

17日に発表された中国GDP及びその他中国の経済指標が市場予想を上回る結果となると、人民幣買いの動きが加速し、一時6.69割れの水準へ。

その後月末にかけては好調な米小売売上高を受けたドル買いの動きや、軟調なユーロ圏製造業PMI、独Ifo景況感指数等を受けたユーロ安を背景にドル/人民幣は6.73を超える水準迄ドル高人民幣安進行。

【金利相場】

月の序盤、MLF3,665億円の満期到来や、企業の税金支払いを控えて、2週間物を中心とした期間の短いターム物が上昇。SHIBOR O/N物は一時2.998%と2015年以来の水準へ。

その後公開市場操作、1年物TMLF(対象を絞った中期貸出制度)によって資金供給が行われたことや、資金調達ニーズも落ち着いたことでO/N物金利は落ち着きを見せる。一方、良好な経済指標が続き預金準備率引き下げなどの追加緩和期待が後退したことで、ターム物金利への上昇圧力が高まり小幅金利上昇。

■ 今月の見通し

【為替市場】

3月の経済指標を受けて中国経済に安定化の兆しが見え始めた中、次の焦点は中米通商協議と見られる。足許では両サイドから合意に向けて前向きな発言が見られ、合意時期は5月下旬との報道も出ており、合意に向けて進展が見られれば、元高圧力が強まるだろう。一方、ユーロ圏経済の低迷やECBの追加緩和への思惑、そして不透明な英国のEU離脱問題を背景にユーロ相場が上値の重い展開を続けるようだと、人民幣相場も伸び悩むことが考えられる。

【金利市場】

良好な経済指標を背景に、追加緩和観測も後退しており、金利の先安観は薄れつつある。一方で当局による事業法人の調達コスト抑制方針から急な引き締めは想定しづらく、また依然として資金市場全体の流動性が維持されていることから、金利上昇は小幅に留まる見込み。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気のパワースポット』

中国4千年の歴史と言われるだけあって、パワースポットも数多く存在します。その一部をご紹介します。

普陀山

浙江省に位置する普陀山は、中国四大仏教名山の一つで、観音信仰の聖地。観音様といえば、日本の方々にもなじみ深いのでは。この観音様のご利益を求めて数多く参拝者が来るようです。更にご利益だけでなく、自然と宗教文化が融合した美しい景観を見ることができると、仏教についてあまり詳しくなくても一見の価値あり！

静安寺

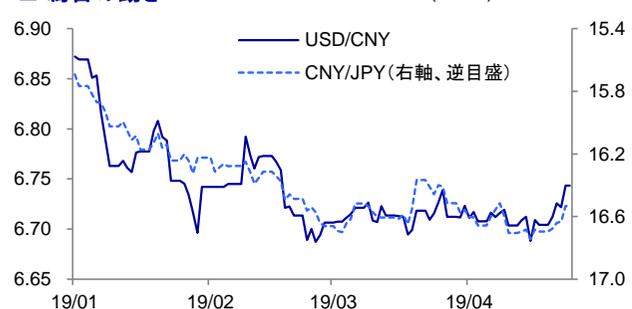
上海の銀座とも称される南京西路に位置する1000年の歴史を誇る仏教寺院です。まず目に入るのがきらびやかな外観。屋根が黄金の瓦で出来ており、眩しいくらい光輝いています。もう1つの見どころは大雄宝殿に祀られた釈迦牟尼の玉仏像。すべて翡翠で作られており、その大きさは高さ約4m、重さ約10トンと中国で最大の大きさを誇ります。目の前で見るとその大きさに圧倒されますが、柔和な表情を見ていると、不思議と心が穏やかになる力を持つ仏像。まさにパワースポット。終われば近くのショッピングモールで買い物もできるなど、パワースポット巡りにはもってこいの場所です。

龍華寺

中国のパワースポットで忘れてならないのが、龍華寺。上海で最も大きな仏教寺院であり、その歴史は1000年以上、上海で最もご利益のあるお寺として有名です。教体の神様が祀られており、神様毎にご利益の違いがあるそうですが、最近では、中国人ビジネスマンの間で商売繁盛の運気を呼び込むパワースポットとして人気が高まっているようです。

■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/11	PPI(前年比)	3月	0.4%	0.4%	0.1%
4/11	CPI(前年比)	3月	2.3%	2.3%	1.5%
4/12	貿易収支(RMB建)	3月	76.60Bio	221.23Bio	34.46Bio
4/12	輸出(前年比、RMB建)	3月	6.3%	21.3%	-16.6%
4/12	輸入(前年比、RMB建)	3月	2.6%	-1.8%	-0.3%
4/17	GDP(前年比)	1Q	6.3%	6.4%	6.4%

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3450 ~ 1.3650
SGD/JPY 81.00 ~ 83.50

アジア・オセアニア資金部 前川 真也

■ 先月の為替相場

4月のシンガポールドル(SGD)相場は、1.35台前半から1.35台後半の狭いレンジでの揉み合いとなった。4月を振り返ると、IMFによる世界経済見通しの下方修正があったものの、目立ったメガティブな材料はなかった。中国をはじめ良好な経済指標が示されたことで、足許の世界景気減速懸念が和らぎ、グローバルに株価が年初来高値を更新、リスクオン相場となった。

第1週、1日中国3月製造業PMIや米国3月ISM製造業景気指数の改善を手掛かりに、SGDは買い先行となった。2日米中協議再開を控えてドル買戻しが入り、SGDは1.35台半ばまで売られた。3日米中協議は合意履行を確実にするメカニズムを除けば大半の問題は解決済みと英紙が報じたことが好感され、リスクオンムードが広がり、SGDが1.35台前半半まで上昇。4日以降は、世界景気減速懸念が後退する中、米金利上昇が上昇。ドル買いが強まり、SGDは1.35台半ばまで売られた。

第2週、8日前週末発表された米3月雇用統計が市場予想を上回る結果となり、ドルが堅調に推移する中、SGDは弱含む。9日、10日は米欧の貿易摩擦懸念やIMFの世界経済見通しの下方修正がドルの重しとなり、SGDが1.35台前半まで買われた。12日注目されたMAS通貨政策発表では、大方の事前予想通り、SGDの政策バンドの傾斜を据え置き、また、許容変動幅や中心値にも変更なしという結果となった。同時に発表されたシンガポール1QGDP速報値では、市場予想を下回る結果となり、発表直後、SGDは一時的に売られたが、その後徐々に発表前の水準に戻した。

第3週、15、16日SDGは軟調推移し、1.35台半ばまで売られた。17日、市場予想を上回る中国1QGDPを受けて、リスクオンムードが広がる中、SGDは1.35台前半まで上昇した。中国政府の景気対策等で投資の持ち直しが寄与した格好。18日ユーロ圏4月製造業PMIが市場予想を下回る結果となり、ユーロ売りドル買いが強まるのに連れられ、SGDは1.35台後半まで売られた。

第4週、23日シンガポール3月CPIが発表され、市場予想を下回る内容となった。24日以降は、ドル買いが強まる中、SGDは1.35台後半まで売られ、越月となった。

■ 今月の見通し

5月のシンガポールドル(SGD)相場は、1.35台を中心としたレンジ内での底堅い推移を予想。先月発表された中国の経済指標が良好な結果となり、市場に安心感が広がっている状況。また、米中貿易交渉では、閣僚級協議も継続し、5月には妥結との報道もある。足許、世界景気減速懸念は和らいでおり、リスクオン相場が継続するだろう。

先月発表されたMAS通貨政策は、大方の事前予想の結果となり、特段サプライズ感のない内容となった。昨年4月に2年ぶりに中立スタンスから金融引き締めスタンスに舵を切り、SGD名目実効レート(S\$NEER)ベースのSGD高誘導を再開、続く10月にも更なる引き締めを実施した。その後、米国と中国の政策スタンスが、より緩和的な方向にシフトする中、世界の金融環境も緩和したと指摘。また、足許のインフレ懸念が落ち着いている状況下、MASはインフレ見通しを引き下げた。

MAS声明文では、世界経済は貿易低迷により予想以上に減速し、短期的な対外要因の不確実性は依然として強いと述べた。過去2年間に渡って拡大してきた世界経済は2019年に減速するとの見解を示した。

同時には発表されたシンガポール1QGDPは前年比+1.3%、製造業部門がマイナスに転じ、足かせとなっている状況。世界経済が減速すれば、今後も製造業の生産の低迷が続くと予想される。また、外需の減退はサービス業の重しとなる可能性もあるだろう。シンガポールの成長率は通年でやや2.5%を下回る水準と見ているが、中国経済に底打ちの兆しが見られれば、シンガポール経済の減速も緩やかなものになろう。これまで以上に経済指標等ファンダメンタルズの動きに注目が集まろう。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地での人気のパワースポット』
既に在星約6年半以上を経過しているのにも関わらず、全く興味がなかったこともあり、パワースポットについての情報は殆どありませんでした。但し、シンガポールには何故か途中で空間がある等奇妙な形のビルが建てられており、風水が重視されていることやご存知のマライオンについてはパワースポットらしき位置づけであることは何となくは感じておりました。

今回、いろいろと調べてみるとそこそこ同スポットがあることが判明したので下記ご紹介させていただきます。

まずは、マライオンです。一番有名なのはマリーナベイの口から噴水を出しているものですが、実は5頭(非公認を合わせると数十頭とも)いるなかのセントーサ島の巨大なマライオン像がパワースポットと言われています。

それから、チャイナタウンにあるブダ・トゥース・レリック寺院もパワースポットのひとつらしく、なかでも正面の玄関の下から運氣が吹き上がっている模様であり、こちらもパワーを感じるには良い場所とのことでした。

最後は、サンテック・シティ・モールにある「富の噴水」です。ここはガイドブックでも紹介されているようで、実際風水に基づいて建てられており、良くカジノに行く前に観光客が訪れるポイントだそうです。

日本に比べると歴史や国土の狭さもあり、基本的に人工物がパワースポットとなっておりやや違和感を覚えますが、シンガポールにお立ち寄りの際は、少し変わった運氣向上をお試しください。
(宮地 崇)

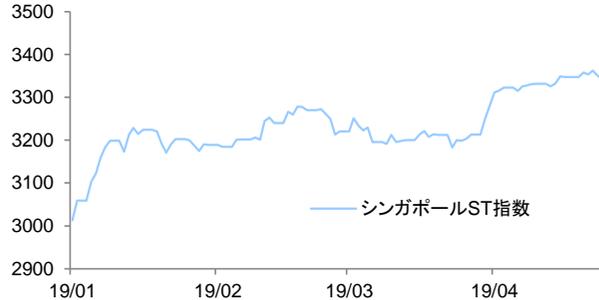
■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/3	購買部景気指数	3月	50.4	50.8	50.4
4/12	GDP	1Q	1.4%	1.3%	1.9%
4/12	小売売上高(前年比)	2月	2.5%	-10.0%	7.6%
4/17	非石油地場輸出(前年比)	3月	-2.2%	-11.7%	4.8%
4/23	CPI(前年比)	3月	0.7%	0.6%	0.5%

タイバート相場

予想レンジ: USD/THB 31.70 ~ 32.60
THB/JPY 3.40 ~ 3.50

バンコック資金室 井上 由貴

■ 先月の為替相場

○ドルバートは1月以来の32.00台に上昇。

上旬、ドルバートは底堅く推移した。1日、31.60台後半で取引を開始。商務省が発表した3月消費者物価指数は前年同月比+1.24%の上昇となり、21ヶ月連続でのプラスとなったものの、相場への反応は限定的でドルバートは31.70を挟んでの小幅推移。その後、米金利が上昇しドルが選好される展開にドルバートはじりじりと31.90台前半まで上昇した。5日は米3月雇用統計が発表され、非農業部門雇用者数が市場予想を上回った一方で平均時給が予想を下回る伸びでまちなちの結果となり、相場の反応は限定的だった。5-8日はタイが連休となり、その間に新未来党のタナトーン党首が2015年に起きた反政府デモで扇動を行なったとして警察に出頭を求められ、事情聴取を受けたとのニュースが流れ、政治的な不透明感が高まると一時31.90台半ばまで上昇するも、連休明けはアジア通貨が全般的に買われる展開に徐々に31.80台まで下落。

中旬、ソクラン休暇で相場は閑散。9日にはIMFが世界経済の見通しを下方修正し、ややアジア通貨は弱含むも、10日に発表されたFOMC議事録において、経済が「著しい不確実性」に直面していると表現されたことを受けてドル売りが優勢となると31.70台前半まで下落した。その後11日には米経済指標の好調な結果を受けて米金利が上昇するとドルバートも週高値圏となる31.80台後半まで上昇。12日以降はソクラン休暇で徐々に流動性が低下、ドルバートは31.80を挟んで動意に乏しい展開となった。休暇明けの17日以降も依然として市場参加者が限られる中、同レンジでの取引が継続。17日に公表された中国第1四半期GDPは市場予想を上回る前年同期比6.4%となり、人民元高が進行するも、ドルバートの反応は限定的だった。

下旬、ドルバートは1月以来の32.00台に上昇。22日に商務省が発表した3月貿易統計で、輸出が前年同月比▲4.88%、輸入が同▲7.63%と大幅マイナスとなり、また2019年度の輸出額見通しも下方修正されると、タイの先行き経済の不透明感から小幅にバート安が進みドルバートは31.90台へ上昇。その後も5/9の選挙結果公表を控えて政治不透明感が漂う中、ドルバートはストップロスオーダーを巻き込みながら32.00台に乗せると、その後も32.10台前半まで上昇している。

■ 今月の見通し

○ドルバートは政治イベントを控え、バート安が継続か。

3月24日に行われた総選挙から1ヶ月が経過するが、依然として最終的な結果が発表されないどころか、比例代表の議席配分の計算方法をめぐり混乱が生じており、5月9日と言われている公式結果の発表自体が行われるかどうかすら怪しくなっている。タクシン派のタイ貢献党と連合を組むことを表明している新未来党は若者を中心に大きく票を伸ばしたが、党首であるタナトーン氏が2015年に起きた反政府デモで扇動を行なったとして事情聴取を受け、今週に入り選挙管理委員会は同氏が選挙関連法に違反した疑いが濃厚だとして、審理することを決定するなど、政治的不透明感が増してきている。5月4-6日の国王戴冠式、9日の選挙結果公表、24日の首相指名のための国会召集とイベントが続くが、特に国王戴冠式以降は政治不安が高まりやすく、一段のバート安が進行する可能性がある。また、22日に商務省から公表された3月貿易統計は依然として中国を中心に輸出が大幅減少していることを示しており、タイ経済先行き不透明感も根強い。アピサック財務相は第1四半期、第2四半期のGDP成長率が約3%に減速する見込みであることを述べるとともに、200億バート相当の経済対策を導入する意向を示している。タイ中銀のウイライタイ総裁は、次期政権の発足が遅れる場合の経済への悪影響を懸念するコメントを出した。ややタイにとってネガティブな材料が並んでおり、積極的にバートを買い進めづらい状況となっている。

国外に目を向けると、米国の対イラン金融制裁の適用免除措置の終了を材料に、原油価格が急騰している。WTIは25日時点で昨年10月以来の65ドル台まで上昇している。多くのアジア通貨にとってそうであるように、原油価格の上昇はバートにとってネガティブなインパクトを与える可能性が高く、こちらもバート安要因となる。FEDが年内の利上げを停止する見込みであることに加え、市場では利下げを織り込みに行く動きが進んでいるものの、米国のみならずECBや日銀も緩和バイアスがかかっている状況においては、他の通貨との比較論という意味で結局ドル安も進行しづらくなっているように感じている。

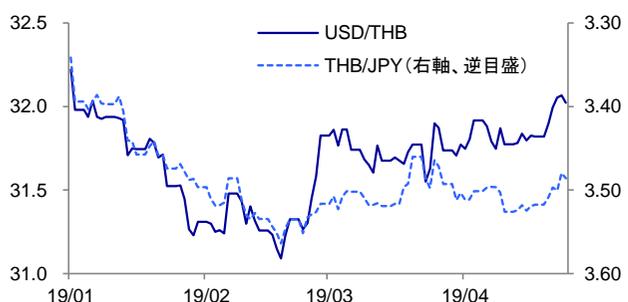
国内、国外いずれもバート安材料が揃い、特に政治イベントが目白押し。5月に関してはバート安基調の継続を予想する。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

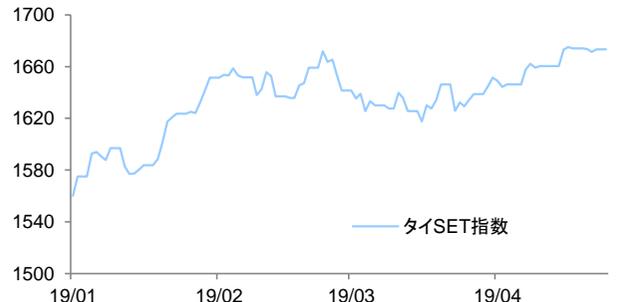
『当地で人気のパワースポット』

パワースポットとしてのみならず、インスタ栄えスポットとしても最近人気が高まっているのが、「ピンクのガネーシャ」ことワット・サマーンラッターナーラームです。バンコック市内から車で1時間半程度、青空の下にどっしり構えるこのガネーシャは、何を隠そう「あらゆる願い事を通常の3倍のスピードで叶えてくれる」神様なのです。神様をお願いしてから叶うまで、どれくらいの期間が通常か良く分からないので、なんとも言えませんが、響きはいいですね。願い事はガネーシャに直接するのではなく、周りに立っているネズミの耳に囁きます。注意としては自分が生まれた曜日の色のネズミの耳に願い事を囁くということ。タイでは生まれた曜日、そしてその曜日にちなんだ色を大切にしている傾向があります。お寺に行くと曜日ごとにお参りする仏像も違ったりしますので、タイを旅行する際は自分が何曜日生まれか調べておくと良いかもしれません。ご興味ないかもしれませんが、私は水曜日生まれで、色は緑です。話をピンクのガネーシャに戻しますと、曜日ごとのネズミに願い事を囁くときは、反対側の耳を塞ぐことを忘れてはいけません。囁いた願い事が反対の耳から逃げないようにするためですね。偉そうに解説しましたが、私、まだ行ったことがありません。最近運が悪いなあと思うことが続いているので、そろそろ訪問のタイミングかもしれません。

c ■ 為替の動き (資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き (資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント (資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	消費者物価指数(前年比)	3月	0.93%	1.24%	0.73%
4/1	CPIコア(前年比)	3月	0.60%	0.58%	0.60%
4/4	消費者景気信頼感指数	3月	-	67.6	69.0
4/22	輸出(通関ベース、前年比)	3月	-4.88%	-3.30%	5.91%
4/22	輸入(通関ベース、前年比)	3月	-2.25%	-7.63%	-10.03%

マレーシアリング相場

予想レンジ:	USD/MYR	4.0900	~	4.1600
	MYR/JPY	26.90	~	27.40
	JPY/MYR	3.6500	~	3.7200

マレーシアみずほ銀行 関上 伸一

■ 先月の為替相場

4月のMYR相場は、米中通商摩擦やプレジデントの解決遅延に加え、当地債券市場に纏わるネガティブな報道等から、4.15水準までMYR安が進展した。

月初は材料の無い中で4.07-4.09の狭いレンジで推移。中国3月製造業PMIの回復や米3月ISM製造業景況指数の反発が好感されるも、マレーシア製造業PMIは鈍化し、MYRの支援材料とはならなかった。一方でマレーシア2月貿易統計は収支こそ黒字幅拡大も、輸出入とも予想外の大幅減少という結果。原油に関して価格と数量が共に下落したのが輸出落ち込みの主因で、世界経済減速懸念を高めた格好。

中旬にUSD/MYRは、マレーシアにネガティブな報道を材料に上昇を見せ始める。まず第一弾が、ノルウェー政府年金基金(オイルファンド)がUSD300billion規模の債券運用ポートのベンチマークから、マレーシアを含む新興国債券を除外するとの報道。対象新興国10カ国のうち、マレーシア向けエクスポージャーはUSD1.9billion相当と伝えられている。第二弾が、国際通貨基金(IMF)の昨年10月以来都合3度目となる2019年世界経済成長見直し引下げ(3.5%→3.3%)。「世界的な貿易摩擦の波及が経済回復に対する主要なリスク」との基金のコメント。リビア政情不安が追い風となってBrentが70ドル台を回復したにも関わらず、マレーシア2月鉱工業生産指数の弱さも相俟って、USD/MYRは12日に掛けて4.11台まで上昇。

MYR安に追い討ちを掛ける債券市場関連報道は翌週も続く。第三弾は、マレーシアについて世界国債インデックス(WGBI)の構成項目から除外されるグレードへの格下げ検討中とのFTSEラッセル社の16日付発表。債券市場でのセルオフと共に、リングットの続落を招く結果となった。またマレーシア経済指標の原則が5月7日会合でのオーバーナイト政策金利(OPR)の引下げ観測を高めた格好となり、一旦4.09台に押しを見ていたUSD/MYRは、18日に1月3日の4.1490を更新する年初来高値4.1500を示現した。その後、GDPを含む此処許の中国経済指標の改善が世界経済減速懸念を中和する中、USD/MYRは24日現在、4.13レベル迄調整して推移している。

■ 今月の見通し

5月のMYR相場は、米中摩擦やプレジデントの解決遅延、世界経済減速リスクに加え、マレーシア債券市場や成長率に関する懸念が重石となるも、堅調な原油価格と着実な経常黒字に支援され、4月のレンジを踏襲する展開を予想する。

4月に注目を集めたマレーシア債券市場だが、2-3月の海外投資家のフローはネット流入に転じていた。左記のオイルファンド及び世界国債インデックスの報道から一部海外投資家のアウトフローが見られたが、2016年末の外国為替管理規則強化後は投機資金の締め出しが債券市場でも進んでいたことから、実際の発表時の債券市場での値幅は数bpと限定的なものであった。

FTSEラッセル社の発表翌日に、マレーシア中銀は海外投資家のMYR為替ヘッジに関する規制のエクゼクティブサマリーをHPに掲示した。実は2017年5月以降、中銀は海外投資家の資本フローにも慎重に目配せを行い、ヘッジの柔軟性を高める規制緩和を進めてきたが、規制自体は法令なので難解な点も否めなかった。FTSE社のリリース内で判断根拠として読み取ることが出来るのは「市場への接触し易さ(Accessibility)」への懸念のみであったが、これに対して再度判り易い形で「MYR市場へのアクセス方法」を示した格好だ。海外投資家を国内市場に呼び戻したいという意思表示とも映る。短期的に投資家フローがMYR売りに転じることは禁じえないが、昨年度当局認可額が顕著な伸びを見せた事業法人の直投フローが本格化する可能性もあり、報道への過剰反応は禁物と見る。

また7日の政策決定会合にてオーバーナイト政策金利(OPR)を予防的に引き下げの観測も高まりつつある。しかしながら、2016年7月に前月の英国国民投票の予想外な結果を受けて予防的利下げを実施したのが当地での直近の利下げだが、為替レート水準と債券市場の地合につき足元は当時と事情が異なっている。1-2月とマイナスに転じていたCPIについても、1月に実施したガソリン値下げ影響を控除するとプラスの水準にあり、中銀は「ディスインフレではない」との評価。少なくとも2019年Q1のGDP結果を見るまでは利率変更を行わず、注意深く観察するスタンスを継続と予想する。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気のパワースポット』
 今月のお題「パワースポット」も、アラフィフ世代派遣者には中々に水準の高い課題だ。シンガポールで当欄を執筆しているご同輩のM君もググリに勤しんでいると聞く。そもそもマレーシアでその様な概念が存在するのか？若い現地スタッフに聞くのは憚られるので、チームヘッド級のミドルエイジのスタッフに聞いてみたところ、「スピリチュアル・プレイス」と呼ばれるところが存在することは判った(ホッ)。

さて、その「スピリチュアル・プレイス」、独断と偏見で以下の3箇所をお勧め申し上げたい。

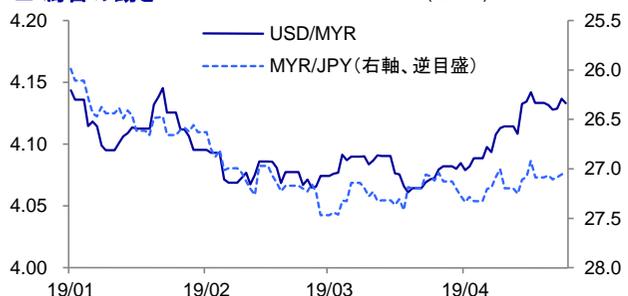
1つ目はバトゥケイブ。マレーシアのヒンズー教の聖地の寺院で、272段の階段を登りきると、洞窟の中に仏様が鎮座している。最近はその階段がカラフルに塗り替えられたようだ。KLから車で30分、アクセスも良い。

2つ目は霹靂洞。マレーシアの古都、イポーにある仏教寺院である。ここも石段を上ると仏様が控えている、だが、ここで終わりではない。更に頑張って石段を登ると、見晴らしのよい岩の上から仏様が街を見守っているのを観ることができる。

3つ目はキナバル山。ボルネオ島サバ州に位置する四千米を超える当地最高峰。筆者も頂上には上りついたことがないが、非常に爽快だと聞く。周囲のジャングルでは、好運であれば世界最大の花「ラフレシア」を見ることが出来る。先住民族の「先祖の霊」という言葉が「キナバル」の由来と云われる。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/4	Trade Balance (MYR)	Feb	10.1B	11.1B	11.5B
4/4	Exports	Feb	2.3%	-5.3%	3.1%
4/4	Imports	Feb	0.9%	-9.4%	1.0%
4/5	Foreign Reserves	29-Mar	-	103.0B	102.6B
4/11	Industrial Output (y/y)	Feb	2.2%	1.7%	3.2%
4/22	Foreign Reserves	15-Apr	-	103.5B	103.0B
4/24	CPI (y/y)	Mar	0.3%	0.2%	-0.4%

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR	13900	~	14400
IDR/JPY	0.76	~	0.80
JPY/IDR	125.00	~	132.00

(注) 100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 河合 良介

■ 先月の為替相場

4月のドルルピアは、14000~14245のレンジでの推移となり、ルピアは対ドルで調整に推移した。

14220近辺でスタートしたドルルピアは、1日に発表された中国3月製造業PMI、米3月ISM製造業景気指数が共に市場予想比良好だったことを受けて、市場センチメントが改善し、月初より、ドルルピアは14100台へ下落。

この間、1日発表のインドネシア3月消費者物価指数は、前年同月比+2.48%とほぼ市場予想通りであったが、8日発表のインドネシア3月外貨準備高は1245億ドル(前月比+15億ドル)となり、6か月連続の増加となった。

月中盤、17日に控えたインドネシア大統領選挙を前に、様子見姿勢が強まり、14100台のレンジ取引が継続したが、15日発表となったインドネシア3月貿易収支が市場予想に反し2か月連続の黒字となったことが好感され、ドルルピアは14100を割れ、16日には14080近辺で取引を終えた。

注目の17日インドネシア大統領選挙で、有力な調査機関の集計で、現職のジョコ大統領がプラボウォ候補に10ポイント前後の差をつけており、ジョコ大統領が再選する見通し(公式結果は5月22日発表予定)となり、インドネシア政局不安が払拭され、また、同日発表となった中国の経済指標が予想を上回る結果となり、海外NDF市場で、ドルルピアが14000前後まで下落(ルピア上昇)する動きにつられ、18日インドネシア国内市場も14000前後でのギャップオープンとなった。

その後、月終盤は、月末輸入企業のドル買い需要に押され、14075近辺での値動きとなっている。(4月23日現在、終値ベース)

25日に発表が予定されているインドネシア中央銀行金融政策決定会合は、金利据置が予想されている。

■ 今月の見通し

今月のドルルピアは、14000~14300をコアレンジとし、方向感を探る展開を予想する。

注目のインドネシア大統領選挙は現職のジョコ大統領が再選する見込みとなり、インドネシア政局不安は払拭された。また、国外に目を向けると、中国経済に底打ち感が出ていることも、新興国通貨にとってポジティブな材料であり、今月は、上記レンジでの相場推移を予想する。

今月は、インドネシア国内では、例月の経済指標に加え、6日に第1四半期GDP、10日に第1四半期経常収支が発表される。

特に経常収支については、2・3月と2か月連続の貿易黒字を確保しており、経常収支赤字の縮小が見込まれるが、これによりインドネシアの経常収支赤字が縮小トレンドに変わるのかと言われれば、時期尚早と考えている。

輸出の減少に歯止めがかかっていないことに加え、4月22日、米政府がイラン産原油の禁輸から8か国・地域を除外した猶予措置を撤廃すると発表したことで原油価格が2018年10月以来の65ドルへ上昇、石油関連製品の輸入増を通じて、貿易収支が赤字へ転落する可能性が高まってきたからである。

また今月はレバラン前の季節要因で、輸入企業のドル買い需要が強まりやすい状況にも注意したい。

証券投資は、引き続き、海外投資家の旺盛な資金流入が確認されているが、現在の市場はやや楽観的過ぎと考えており、先月9日に発表されたIMF経済見通しにおいて、根強い下振れリスクを示されており、ひとたび、市場センチがリスクオフになった時には、ドルルピアは反転上昇すると予想している。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気のパワースポット』
パワースポットと言えば、「神々のすむ島」と呼ばれるバリ島のあちこちにありますが、ここであえて、ジャワ島のパワースポットを紹介したいと思います。ジャワ島の点在しているパワースポットの中で、メジャーなスポットが2つあります。

1. プランバナン寺院群
ジャワ島中部、ジョグジャカルタ空港から車で15分位のところに位置する世界遺産「プランバナン寺院群」は、ヒンドゥー教の遺跡としてはインドネシア最大級です。9世紀頃に建てられたとされており、天に向かって鋭く切り立った山のような寺院がいくつも集まっており、高さ47mのシヴァ堂を中心にブラフマ堂、ヴィシュヌ堂が並んでおり、ヒンドゥー三大神が祀られています。

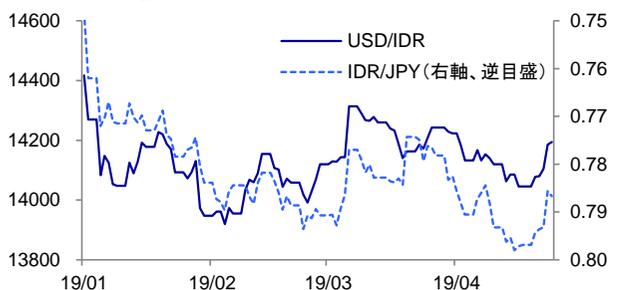
2. ボロブドゥール寺院
世界最大級の仏教遺跡であるボロブドゥール寺院は、8世紀~9世紀にかけて建造されたと言われており、大きさは、高さ約33メートル、最も下に一辺約120mの基壇があり、その上に5層の四角形壇、さらにその上に3層の円形壇があり、全体で9層の階段ピラミッド構造の高度な石造りになっています。遺跡は下段から上段にいくに連れ、「欲界一色界一無色界」を表現しており、これを見ながら最上階に上っていくと、悟りの道が開けるとされています。

ここで外せないのは「仏像に触ると幸せになれる」と言われているストゥーパがあります。上3層にはストゥーパが円形に並び、中には仏像が納められています。その中の1つは、『クント・ビモ』と呼ばれている仏像が納められていて、ストゥーパの穴から手を伸ばし、「女性は仏像の右足小指、男性は仏像の右手小指に触れると願いが叶い、幸せになれる。」といわれています。

(インドネシアみずほ銀行 資金為替課 アストリド)

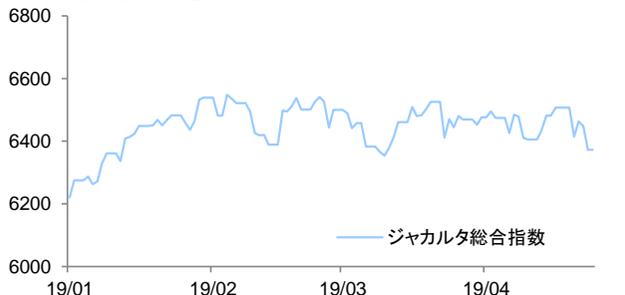
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	CPI(前年同月比)	3月	2.51%	2.48%	2.57%
4/8	外貨準備高(USD B)	3月	-	124.5	123.3
4/15	輸出(前年比)	3月	-11.17%	-10.01%	-11.16%
4/15	貿易収支(USD M)	3月	-177	540	330
4/25	BI 7daysリバースレポ金利		6.00%	-	6.00%

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 52.00 ~ 53.00
 PHP/JPY 2.10 ~ 2.16

アジア・オセアニア資金部 マニラ室 樋上 陽一

■ 先月の為替相場

1日のドルペソ為替相場は1米ドル＝52.60ペソで取引開始となり、これが4月の最高値となりそうである。
 月初より中国3月製造業PMI、米3月ISM製造業景気指数の良好な結果に市場センチメントは改善。加えて米トランプ大統領の「対中貿易合意は近い」との発言で米中貿易協議の進展が材料視され、アジア通貨は対ドルで堅調推移。4日には1米ドル＝52.01ペソで取引された。
 5日に発表された比3月消費者物価は前年比+3.3%で市場予想の同+3.5%、前月の同+3.8%から低下。利下げの思惑から発表直後はペソが売られ1米ドル＝52ペソ割れとはならず。一方、当局者からは金融緩和に慎重なコメントが聞かれ、ドルの上値も重かった。
 同日の海外時間に発表された米3月雇用統計を受けて為替市場ではドル買いが優勢。8日は1米ドル＝52.20ペソで市場オープン。トランプ大統領がイラン革命防衛隊をテロリスト指定したことや、リビア内戦が本格化すると懸念で原油、金価格が上昇したことでドル売りが強まり、9日にはIMFが世界成長予想を前回の3.5%から3.3%に下方修正し、米金利低下がドル売りを後押しすることに。
 ドルペソ為替相場は、10日に節目の1米ドル＝52ペソを割り込み、11日に発表された比2月貿易統計では貿易赤字が27.9億ドルと前月の37.6億ドル、市場予想の34.1億ドル(それぞれ赤字)から縮小したことが好感されてペソ買いが進む。
 15日には昨年2月9日以来のペソ高値水準である1米ドル＝51.63ペソで取引され、1米ドル＝51.70-80ペソレベルでイースター休暇(18、19日)を迎えた。休暇明けのドルペソ為替相場はドルが買い戻される展開に。休暇中にアジア通貨が対ドルで軟調だったことから22日に1米ドル＝52ペソを回復。米政府がイラン産原油の輸入を一部の国に認める特例措置を終了すると発表したことで原油価格が上昇、アジア通貨売りに。23日には堅調な企業決算、米金利の低下を背景に米株式市場においてS&P、ナスダックが史上最高値を更新、為替市場はドル買いに。24日には一時1米ドル＝54.325ペソで取引される場面も。(24日17時現在)

■ 今月の見通し

先月は米国の長短金利逆転によるリスクオフ相場が思いのほか早く落ち着き、ペソ高が進んで一ヶ月ぶりに1米ドル＝51ペソ台へ突入した。しかしながら足元はリスクオン相場でドル買い優勢となっている。

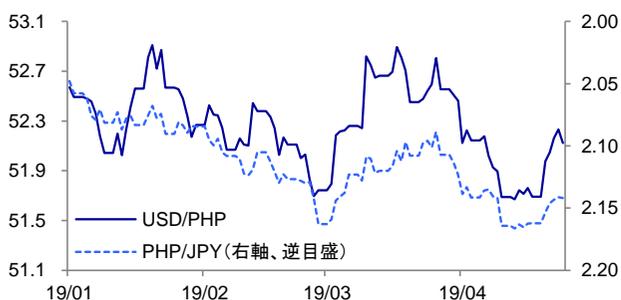
ペソの金融政策については、フィリピン中銀のジョクノ総裁が『状況を注意深くみていく必要がある』、ギニグンド副総裁は『インフレが3%になったら考える』と発言し、利下げにはまだ時期尚早とのスタンスが窺えるのだが、金融緩和を期待する市場参加者は多い。
 また比2月貿易統計は輸入額が前月の90.3億ドルから79.7億ドルに減少したことで貿易赤字縮小に繋がったものの、前年比では輸出が▲0.9%、輸入が2.6%増。赤字幅縮小は一過性との見方も多い。
 よって根強いペソ売り圧力が存在すると考える。

左記の通り、IMFが世界景気に根強い下振れリスクを公表したことで米金利が低下してドル売りとなったが、材料としては安全資産のドルが選好されることにもなり得る。
 斯かる状況下、5月についてはドルの底固い値動きを予想。今年に入り、2度、節目の1米ドル＝52ペソを割り込んだが、51ペソ台での取引時間は短く、ドルの底固さが確認されたとの印象。

一方、ペソ高材料がないわけでない。今年に入り外国人投資家のフィリピン株週次売買動向は大幅な買い越しが続いている。15週のうち13週、足許は4週連続で買い越しを記録。フィリピン株式指数(PSEi)は8000ポイント手前で上値が重いものの動向を注意してしておく必要はありそうだ。

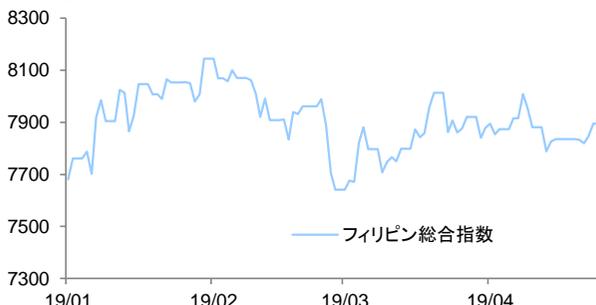
■ 為替の動き

(資料)ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日 イベント
 上記参照

(資料)ブルームバーク

期間 予想 結果 前回

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 67.50 ~ 72.50
INR/JPY 1.55 ~ 1.64

アジア・オセアニア資金部 インド室 田川 順也

■ 先月の為替相場

【4月の米ドル/インドルピーは小幅に上昇する展開だった】

69.34で新年度取引を開始。インド株式市場、債券市場への海外投資資金の流入による外貨売り/ルピー買いが観測され、3日には当月の安値となる68.38まで下落。ただ、昨年夏以来の水準となった3月の安値(68.35)が意識される中、一段の下値迫りとはならず。

その後インド中銀政策会合では0.25%の利下げが発表された。利下げ自体は事前予想に沿ったものだったが、政策金利と同時に発表される政策運営スタンスについて「緩和的」というワードを予想する向きが見られた中、実際は「中立」と発表されたことから株式市場はネガティブに反応。株売りは外国人投資家のルピー買いの減退が連想されることからドル/ルピーは上昇。良好な米雇用統計、併せて原油が昨年11ぶりとなる63ドル(WTI)を上上げるとドル/ルピーは69台後半まで駆け上がる展開。

同水準では実需のルピー買いが見られ一旦押し返される展開となったものの、事前予想比赤字額が拡大していた貿易収支を見ながら結局戻ってくる展開。64ドルを挟んでもみ合っていた原油が、米政府がイラン産原油の禁輸から8カ国・地域を除外した猶予措置を撤廃すると発表したことで供給不安が広がり、買いが優勢、66ドル前半まで上昇する展開にルピーは連れ安。23日には当月高値となる69.89を示現。執筆時点24日では69.55レベルで取引されている。

【4月のインドルピー/日本円は方向感の出ない展開だった】

1.60で当月オープンを迎えたルピー/円は、上記のとおりドル/ルピーが当月安値を付けると同タイミングで当月高値となる1.63を示現。その後ドル/ルピーが69代後半まで上昇するとルピー/円は9日に当月安値となる1.59まで下落。ドル/円が月を通して111.00-112.00の狭いレンジでの推移となる中、ルピー/円はほぼドル/ルピーの動きと近似する展開。24日執筆時点では1.60レベルの推移となっている。

■ 今月の見通し

【5月の米ドル/インドルピーは方向感を欠く展開を予想】

2月のインド中銀政策会合にて利下げが決定された時は金利低下を好感したインド株式市場に対する非居住者の投資資金のインフローによって為替はルピー高に振れる展開だった。4月も政策金利は同じように引き下げられたが、政策スタンスを「中立」に維持したことから、発表直後はより緩和スタンスを予想する向きの失望を誘い、為替はルピー安に振れた。引き続き外国人投資家の動きにルピーは振らされる展開が想定される。

長い目線でインド株式市場を見てみると、センセックスは今月半ばに39,275をつけ史上最高値を更新した。年初から中国の減速を端にした新興国の景気後退懸念が巷では叫ばれているが、インドの株は堅調そのものとなっている。株式の堅調さが続く限り、海外からの投資資金が流入し、ルピー買いフローが発生することからルピーの下支え要因となろう。

一方、ルピー安方向の要因が原油。昨年ドル/ルピーと原油相場の相関が非常に高まったことは記憶に新しい。昨年10月頭打ちをし、高値から一時45%近く下落していた原油が戻りを試す展開が続いている。既述のように米国のイラン産禁輸について猶予措置の撤回を要因に4月は一段と一旦上昇したが、その分を 사우ジ が増産するとの噂も聞かれている。現状短期的な原油相場の動きは政治色が強く、予想が難しいが、上昇が続くようであればルピー安バイアスがかかることになろう。また、言わずもがなであるが5/23が印下院総選挙の開票日。

上下どちらにも振れる要因が考えられ、方向感を欠く展開を予想したい。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気のパワースポット』

パワースポット=聖地なら、タージマハル、ヒンドゥー教の聖地バラナシやインド最南端のコモリン岬、シク教総本山ゴールデンテンプルのあるアムリトサル。ヨギー(ヨガを習慣としている人)にとっては、ガンジス河上流のリシケシ、仏教徒には釈迦が菩提樹の下で悟りを開いたとされるブッダガヤー(仏陀伽耶)をはじめとする八大聖地等々。以上がガイドブック的回答といえるでしょうか。

個人的に「パワースポット」と言われて真っ先に浮かんだのは、車のダッシュボードあたりちょこんと置いてある、5cmほどのガネーシャの置きものです。オフィスを見渡すと、同僚の机の上にも小さなガネーシャが飾られています。

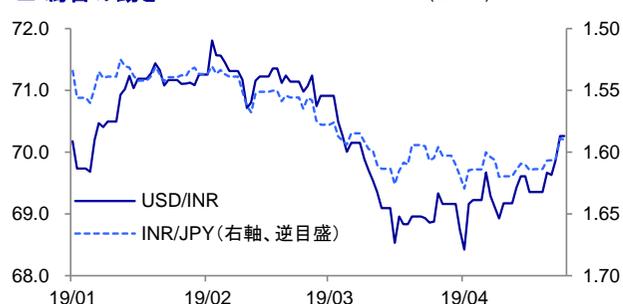
ガネーシャは、ゾウの頭をしたヒンドゥー教の神のひとつで、商売繁盛の神ともいわれています。商いを営むところでは、店先や祭壇において、毎朝のように新しい花がそえられています。

朝タクシーに乗り、お代を払うと、そのお札をガネーシャの置き物、ドライバーの額、ガネーシャ、ドライバーとお金をベタベタくっつけて拝む光景に出くわします。これはBohni(またはBoni)といって、ドライバーに限らず、一日の最初のお金にその日の商売の幸運を願って行うものだそうです。

朝のドライバーが、いつまで正規料金で商売しているかはいざ知らず、いつもより早起きして、ヨガの発祥のインドでストレッチをして、13億人の人口の一番客になったなら、それこそパワーをもらえる一日を過ごせそうです。(インド営業部ムンバイ 渡辺)

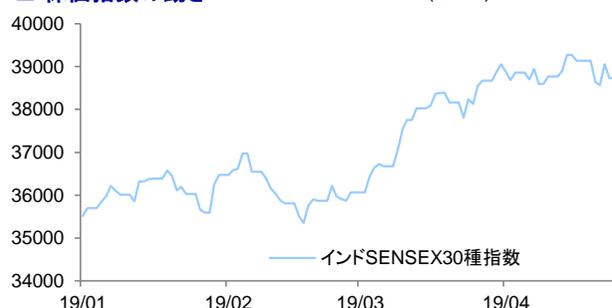
■ 為替の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料)ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料)ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
4/1	製造業PMI	3月	-	52.6	54.3
4/4	政策金利	-	6.00%	6.00%	6.25%
4/12	CPI	1月	2.80%	2.86%	2.57%
4/12	鉱工業生産	3月	2.0%	0.1%	1.4%
4/15	貿易収支	3月	-137億ドル	-95億ドル	-147億ドル

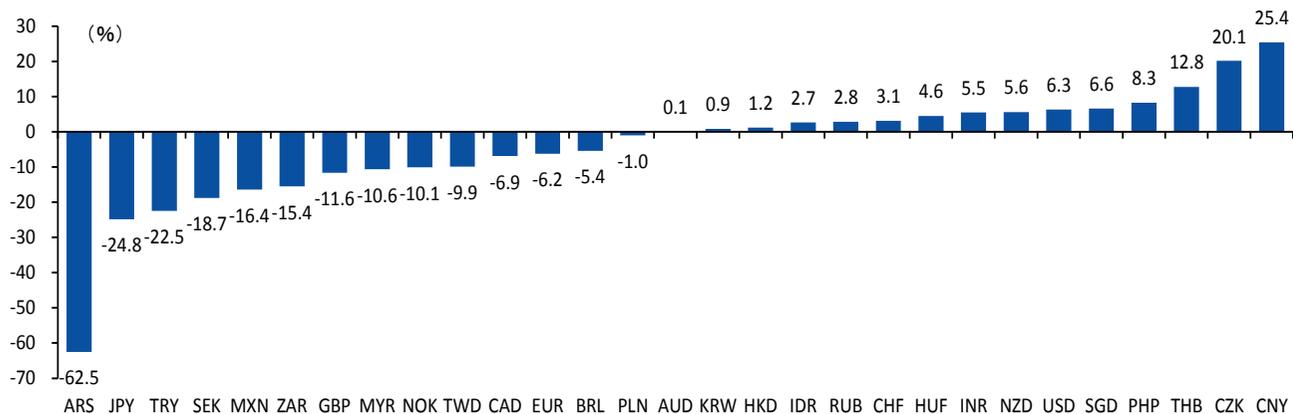
■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2018年末	2019年4月末	騰落率	株式市場	2018年末	2019年4月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	23327.46	26462.08	13.4%	-
日本	USD/JPY	109.69	111.63	1.8%	日経平均株価	20014.77	22307.58	11.5%	9.5%
ユーロ圏	EUR/USD	1.1467	1.1132	-2.9%	ドイツDAX指数	10558.96	12282.6	16.3%	16.3%
英国	GBP/USD	1.2754	1.2899	1.1%	ロンドンFTSE100指数	6728.13	7434.13	10.5%	9.3%
豪州	AUD/USD	0.7049	0.7015	-0.5%	S&P/ASX200指数	5646.4	6382.144	13.0%	13.6%
カナダ	USD/CAD	1.3637	1.3485	-1.1%	S&Pトント総合指数	14322.86	16576.1	15.7%	17.0%
エマージングアジア									
中国	USD/CNY	6.8785	6.7435	-2.0%	上海総合	2493.896	3123.826	25.3%	27.8%
香港	USD/HKD	7.8319	7.8438	0.2%	香港ハンセン	25845.7	29549.8	14.3%	14.2%
インド	USD/INR	69.7675	70.2612	0.7%	インドSENSEX30種	36068.33	38730.86	7.4%	6.6%
インドネシア	USD/IDR	14390	14186	-1.4%	ジャカルタ総合	6194.498	6372.787	2.9%	4.4%
韓国	USD/KRW	1110.95	1160.62	4.5%	韓国総合株価	2041.04	2190.5	7.3%	2.7%
マレーシア	USD/MYR	4.1335	4.1368	0.1%	ブルサマレーシアKLCI	1690.58	1635.68	-3.2%	-3.3%
フィリピン	USD/PHP	52.556	52.232	-0.6%	フィリピン総合	7466.02	7894.45	5.7%	6.4%
シンガポール	USD/SGD	1.3629	1.3631	0.0%	シンガポールST	3068.76	3350.28	9.2%	9.2%
台湾	USD/TWD	30.549	30.927	1.2%	台湾加権	9727.41	11039.86	13.5%	12.1%
タイ	USD/THB	32.327	32.068	-0.8%	タイSET	1563.88	1673.32	7.0%	7.9%

(注)4月25日までの実績

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2019年3月時点)



■ 実質GDP成長率

	2017Q3	2017Q4	2018Q1	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2019Q1	2017	2018
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	2.8	2.3	2.2	4.2	3.4	2.2		2.2	2.9
日本*	2.5	1.6	-0.4	1.9	-2.4	1.9		1.9	0.8
ユーロ圏	2.8	2.7	2.4	2.2	1.6	1.2		2.4	1.9
英国	2.0	1.6	1.2	1.4	1.6	1.4		1.8	1.4
豪州	2.8	2.4	3.1	3.1	2.7	2.3		2.4	2.8
カナダ*	1.3	1.7	1.3	2.6	2.0	0.4		3.0	1.8
エマージングアジア									
中国	6.7	6.7	6.8	6.7	6.5	6.4	6.4	6.8	6.6
香港	3.6	3.5	4.6	3.5	2.8	1.3		3.8	3.0
インド	6.8	7.7	7.7	8.0	7.0	6.6		7.1	7.2
インドネシア	5.1	5.2	5.1	5.3	5.2	5.2		5.1	5.2
韓国	3.8	2.8	2.8	2.8	2.0	3.1	1.8	3.1	2.7
マレーシア	6.2	5.9	5.4	4.5	4.4	4.7		5.9	4.7
フィリピン	7.2	6.6	6.5	6.2	6.0	6.3		6.7	6.2
シンガポール	5.1	3.7	4.7	4.2	2.4	1.9	1.3	3.9	3.3
台湾	3.4	3.5	3.2	3.3	2.4	1.8		3.1	2.6
タイ	4.5	3.9	5.0	4.7	3.2	3.7		4.0	4.1

(注) インドの年間成長率は会計年度(4~3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	18/08	18/09	18/10	18/11	18/12	19/01	19/02	19/03	2017	2018
	(%)								(%)	
先進国										
米国	3.8	3.7	3.8	3.7	3.9	4.0	3.8	3.8	4.4	3.9
日本	2.4	2.4	2.4	2.5	2.4	2.5	2.3		2.8	2.4
ユーロ圏	8.0	8.0	8.0	7.9	7.9	7.8	7.8		9.1	8.2
英国	4.0	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9		4.4	4.1
豪州	5.3	5.0	5.0	5.1	5.0	5.0	4.9	5.0	5.6	5.3
カナダ	6.0	5.8	5.7	5.6	5.6	5.8	5.8	5.8	6.3	5.8
エマージングアジア										
中国		3.8			3.8				3.9	3.8
香港	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	3.2	2.8
インドネシア	5.3								5.4	5.2
韓国	4.1	4.0	3.9	3.8	3.8	4.4	3.7	3.8	3.7	3.8
マレーシア	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3		3.4	3.3
フィリピン			5.1			5.2			5.7	5.3
シンガポール		2.1			2.2				2.2	2.1
台湾	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7
タイ	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0	0.8		1.2	1.1

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	18/08	18/09	18/10	18/11	18/12	19/01	19/02	19/03	2017	2018
	(前年比%)								(前年比%)	
先進国										
米国	2.7	2.3	2.5	2.2	1.9	1.6	1.5	1.9	2.1	2.4
日本	1.3	1.2	1.4	0.8	0.3	0.2	0.2	0.5	0.5	1.0
ユーロ圏	2.1	2.1	2.3	1.9	1.5	1.4	1.5	1.4	1.5	1.8
英国	2.7	2.4	2.4	2.3	2.1	1.8	1.9	1.9	2.7	2.5
豪州		1.9			1.8				1.3	1.9
カナダ	2.8	2.2	2.4	1.7	2.0	1.4	1.5	1.9	1.6	2.3
エマージングアジア										
中国	2.3	2.5	2.5	2.2	1.9	1.7	1.5	2.3	1.6	2.1
香港	2.3	2.7	2.7	2.6	2.5	2.4	2.1	2.1	1.5	2.4
インド	3.7	3.7	3.4	2.3	2.1	2.0	2.6	2.9	3.3	4.0
インドネシア	3.2	2.9	3.2	3.2	3.1	2.8	2.6	2.5	3.8	3.2
韓国	1.4	2.1	2.0	2.0	1.3	0.8	0.5	0.4	1.9	1.3
マレーシア	0.2	0.3	0.6	0.2	0.2	-0.7	-0.4	0.2	3.9	1.0
フィリピン	6.4	6.7	6.7	6.0	5.1	4.4	3.8	3.3	3.2	5.1
シンガポール	0.7	0.7	0.7	0.3	0.5	0.4	0.5	0.6	0.6	0.4
台湾	1.5	1.7	1.2	0.3	-0.1	0.2	0.2	0.6	0.6	1.4
タイ	1.6	1.3	1.2	0.9	0.4	0.3	0.7	1.2	0.7	1.1

(注) 豪州は四半期データ。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2017Q2	2017Q3	2017Q4	2018Q1	2018Q2	2018Q3	2018Q4	2017	2018
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-2.3	-2.3	-2.3	-2.3	-2.2	-2.3	-2.3	-2.3	-2.4
日本	4.0	4.2	4.2	4.1	4.1	3.8	3.5	4.0	3.5
ユーロ圏	2.9	3.1	3.2	3.3	3.4	3.1	2.9	3.2	3.0
英国	-4.3	-3.6	-3.3	-3.4	-3.2	-3.5	-3.9	-3.3	-3.9
豪州	-2.4	-2.8	-3.4	-2.3	-2.5	-2.3	-1.5	-2.6	-2.2
カナダ	-2.6	-2.6	-2.8	-3.0	-3.0	-2.7	-2.7	-2.8	-2.7
エマージングアジア									
中国	1.5	1.2	1.6	1.1	0.7	0.5	0.4	1.4	0.4
香港	4.1	4.8	4.7	4.4	4.1	3.6	4.3	4.7	4.3
インド	-1.3	-1.4	-1.5	-1.9	-1.9	-2.3	-2.4	-1.5	-2.4
インドネシア	-1.4	-1.3	-1.6	-1.9	-2.3	-2.8	-3.1	-1.6	-3.0
韓国	5.1	5.3	4.9	4.5	4.6	4.7	4.7	4.9	4.7
マレーシア	2.6	3.0	3.1	3.7	3.3	2.6	2.3	3.1	2.3
フィリピン	-0.5	-0.1	-0.8	-0.6	-1.7	-2.7	-2.4	-0.8	-2.4
シンガポール	18.1	16.9	16.0	16.0	16.9	17.5	17.7	16.0	17.7
台湾	12.9	13.6	14.3	14.3	14.0	12.7	11.6	14.3	11.6
タイ	10.6	11.0	11.0	10.7	10.4	8.1	6.9	11.0	6.9

(注) インドの年間経常収支は会計年度(4~3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	(単位: bp)	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	2.25-2.50	引き締め: 2015/12/17	0.25 - 0.50	2018/12/19	+25	2019/3/20	現状維持
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10	2019/4/25	現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5	2019/4/10	現状維持
英国	バンク・レート	0.75	引き締め: 2017/11/2	0.25	2018/8/2	+25	2019/3/21	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	1.50	緩和: 2011/11/1	4.75	2015/8/2	-25	2019/4/2	現状維持
カナダ	翌日物金利	1.75	引き締め: 2017/7/12	0.50	2018/10/24	+25	2019/4/24	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物貸出基準金利	4.35	緩和: 2012/6/8	6.31	2015/8/25	-25	2015/10/23	-25bp
インド	翌日物レポ金利	6.00	緩和: 2019/2/7	6.50	2019/4/2	-25	2019/4/2	-25bp
インドネシア	7日物リバースレポレート	6.00	引き締め: 2018/5/17	4.25	2018/11/15	+25	2019/4/25	現状維持
韓国	7日物レポ金利	1.75	引き締め: 2017/11/30	1.25	2018/11/30	+25	2019/4/18	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.25	引き締め: 2018/1/23	3.00	2018/1/23	+25	2019/3/5	現状維持
フィリピン	翌日物金利	4.75	引き締め: 2018/5/10	3.00	2018/11/15	+25	2019/3/21	現状維持
タイ	翌日物レポ金利	1.75	引き締め: 2018/12/19	1.50	2018/12/19	+25	2019/3/20	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	6.25	緩和: 2012/3/12	15.00	2017/7/7	-25	2017/7/7	-25bp

(注)インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBIレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行